

日本養護教諭養成大学協議会
事業活動報告書
(2020 年度)

2021 年 9 月

目 次

| | |
|--|----|
| はじめに | 1 |
| I 日本養護教諭養成大学協議会 2020 年度総会 | |
| 1 2020 年度総会のプログラム | 3 |
| 2 総会議事録 | 4 |
| II 2020 年度事業報告 (2020.4 から 2021.3) | |
| 1 役員会等議事録 | 7 |
| 2 2020 年度基本調査 | 10 |
| 3 ホームページ報告 | 12 |
| 4 ニュースレター報告 | 13 |
| 5 日本養護教諭養成大学協議会オンラインミーティング報告 | 15 |
| 6 養成教育セミナー報告 (WEB 配信) | 20 |
| 7 2020 年度教育実習・臨床実習実施状況調査結果報告 | 24 |
| III 検討委員会報告 | |
| 1 教育課程 (カリキュラム)・養成制度 (法制度) 検討委員会 | 30 |
| 2 ファカルティ・ディベロップメント (FD) 検討委員会 | 36 |
| 3 広報・渉外委員会 | 38 |
| IV 養護教諭関係団体連絡会活動報告 | 39 |
| V 規約 | |
| 1 日本養護教諭養成大学協議会会則 | 40 |
| 2 日本養護教諭養成大学協議会役員会規程 | 42 |
| 3 日本養護教諭養成大学協議会理事選出に関する規程 | 43 |
| VI 加盟大学一覧 | 44 |
| VII 役員一覧 | 46 |

はじめに

日本養護教諭養成大学協議会 会長 遠藤伸子

2020年度の活動報告書をお届けいたします。第5期の最終年度でしたが、年度当初の4月には、新型コロナの感染拡大による緊急事態宣言から始まり、終息をみることなく終えた1年となりました。準備を進めていた事業計画の変更を余儀なくされる中で、第5期最大のタスクであった「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」を完成させご報告することができました。これにより、基盤とする学問体系が異なっても養護教諭養成大学が卒業までに習得させておくべき力の明確化を図ることができたと考えます。今後は評価となりますので、まずは、ご活用戴き忌憚ないご意見が頂戴できれば幸いです。

その他の活動については、感染の影響をもろに受け、役員会もオンライン、総会や教育セミナーもWeb上、楽しみにしていた会員交流の場である情報交換会も中止にせざるを得なくなりました。

また、年度当初は、政府や行政からの通知も遅く、先の見通しが立たない中で、積極的に情報提供に努めました。さらに、会員校の状況やニーズを把握したいという思いから6月には緊急オンラインミーティングを開催致しました。開催してみれば、オンライン上で直接顔を合わせ、各地、各校の状況や課題、取り組みなどを知ることになり、大変有益でした。また、11月には「教育実習・臨床実習実施状況調査」を行いました。いずれもコロナ過にあって教育の質をどう担保するのかということが主題でしたが、先進的な取り組みや新たな学習方法の探求など、会員校それぞれの工夫や有益な情報を知ることとなりました。

以前は異なる学問分野からなる養護教諭養成課程が共同することの難しさばかり強調されてきましたが、今回は、その多様性が強みになることがわかりました。さらに、例年対面で行ってきた教育セミナーも、FD委員会の健闘により、オンライン上で実施できる演習教材の開発が行われました。ご覧いただけただけでしょうか？素晴らしい教材をご提供できたと自負しております。

こうしてみますと新型コロナによる影響は、一概に悪かったとはいえません。現に協議会運営の方法や、新たな教育・研究の可能性などを探る契機にもなったと思います。

今後は、ポストコロナ過の社会を見据えつつ、会員校の相互の提携・協力により本会の使命達成に貢献するべく活動して参ります。何卒お力添えをお願い申し上げます。

I 日本養護教諭養成大学協議会 2020 年度総会

I-1 2020 年度総会のプログラム

日時：2020 年 8 月 26 日～9 月 4 日まで オンライン配信

総会

8 月 26 日：本会HPで総会資料と活動報告書を配信

8 月 26 日～9 月 4 日：意見聴取

9 月 7 日～9 月 13 日：メールにて回答

9 月 14 日～9 月 20 日：議決

9 月末日：HPにて報告

I-2 総会議事録

COVID-19による国の緊急事態宣言を受けて「人の移動を避ける、三密を避ける」という感染予防上の観点から、2020年度の総会は、会場に集まって行う形式ではなく、以下の日程に沿ってオンラインにて開催した。

8月26日：本会HPで総会資料と活動報告書を配信

8月26日～9月4日：意見聴取

9月7日～9月13日：メールにて回答

9月14日～9月20日：議決

9月末日：HPにて報告

8月26日～9月4日までオンライン配信を行った結果、議決権を有する会員校136校のうち72校にご参加いただき、会則9条3「総会は、会員大学の過半数の出席および委任状により成立する」により成立したことが確認された。以下の議題が審議並び報告された。併せて役員選挙の報告がなされた。なお、2020年度オンライン総会の報告は、代表評議員・評議員へのメールおよびHPにて行われた。

1. 議事

(1) 2019年度事業報告（資料1）

資料1に基づき、以下の内容が報告された。

①総会の開催日時

2019年9月10日（火）場所：きゅりあん（東京品川区立総合区民センター）

②養成教フォーラムの開催：

日時：2019年9月10日（火）場所：きゅりあん（東京品川区立総合区民センター）

③養成教育セミナーの開催

日時：2019年9月9日（月）場所：きゅりあん（東京品川区立総合区民センター）

④常設委員会の活動

教育課程（カリキュラム）・養成制度（法制度）検討委員会、ファカルティ・ディベロップメント（FD）検討委員会、広報・渉外委員会

⑤ワークショップの開催

日時：2019年12月15日（日）場所：国際医療福祉大学東京赤坂キャンパス

テーマ：「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」の構築に向けて

⑥日本養護教諭養成大学協議会事業活動報告書（2018年度）の発行（2019年9月）

⑦機関紙（Newsletter）39-41号の発行（2019年7月、2019年11月、2020年3月）

⑧役員会の開催（第1回～第7回）

⑨基本調査実施・報告

⑩養護教諭関係団体連絡会の活動

⑪入退会等について（入会4大学、退会1大学）

(2) 2019年度決算報告

- 資料2に基づき、報告され、承認された（承認72校・否認0校）。
- (3) 2019年度監査報告（資料3）
砂村監査委員、西牧監査委員より報告され、承認された（承認72校・否認0校）。
- (4) 2020年度事業（中間）報告
資料4に基づき、報告され、承認された（承認72校・否認0校）。
- ①日本養護教諭養成大学協議会オンラインミーティングの開催：2020年6月14日（日）
- ②総会の開催：2020年8月26日～9月4日まで オンライン配信
- ③オンラインによる教職実践演習の展開－連携を中心とした実践－
セミナーで予定していた演習内容を、オンライン演習として作成し直し、掲載（9月末）
- ④常設委員会の活動
- ・教育課程（カリキュラム）・養成制度（法制度）検討委員会 報告
これまでの教育課程（カリキュラム）検討委員会の成果と前期の調査結果を基盤にした大学の養成教育へ生かすことのできる本協議会独自の「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」の作成等の活動について
 - ・ファカルティ・ディベロップメント（FD）検討委員会
「実践力を高める演習の進め方－教職実践演習で展開する－」をテーマにて活動を実施。会員校のニーズの高かった「連携」と「シミュレーション」に関する内容を展開方法として選定した事例の作成、評価方法の検討等の活動について
 - ・広報・渉外委員会
ニューズレターの発行、ホームページでの情報配信等の活動について
- ⑤日本養護教諭養成大学協議会事業活動報告書（2019年度）発行（2020年9月）
- ⑥機関紙（Newsletter）42号発行（2020年7月）
- ⑦役員会の開催（第1回～第4回）
- ⑧役員選挙に関する活動と日程
2020年度は、現理事の任期終了に伴い理事選挙を行った。理事会では、日本養護教諭養成大学協議会理事選出に関する規程（選挙管理委員会）第1条に基づき、選挙管理委員長を高橋佐和子氏（神奈川県立保健福祉大学）、委員を内山有子氏（東洋大学）、関由紀子氏（埼玉大学）に委嘱した。理事選出にかかわる選挙は以下の日程で行った。
- 7月4日 選挙に関する書類の発送
 - 7月24日 投票締め切り
 - 8月1日 開票ならびに該当評議員への連絡 等
 - 8月26日～9月4日 総会での報告
- ⑨基本調査実施・報告
- ⑩入退会について：入会1大学、退会0（2020年7月現在）
- (5) 2020年度修正予算（案）
資料5に基づき、提案され、承認された（承認72校・否認0校）
- (6) 2021年度事業計画（案）（2021年4月～2022年3月）
資料6に基づき、提案され、承認された（承認72校・否認0校）

- ①総会の開催：2020年9月中旬：きゅりあん（東京品川区立総合区民センター）予定
 - ②養成教フォーラムの開催：2020年9月中旬：きゅりあん（東京品川区立総合区民センター）予定
 - ③養成教育セミナーの開催：2020年9月中旬：きゅりあん（東京品川区立総合区民センター）予定
 - ④常設委員会の活動
教育課程（カリキュラム）・養成制度（法制度）検討委員会、ファカルティ・ディベロップメント（FD）検討委員会、広報・渉外委員会
 - ⑤日本養護教諭養成大学協議会事業活動報告書（2020年度）発行（2021年9月）
 - ⑥機関紙（Newsletter）発行3回 45～47号発行予定
 - ⑦役員会の開催（年間6回程度の開催）
 - ⑧基本調査実施・報告
 - ⑨養護教諭関係団体連絡会の活動
 - ⑩会員情報交換会
 - ⑪会員校拡大に向けた活動
 - ⑫その他、本会の目的に合致する活動
- (7) 2021年度予算（案）
資料7に基づき、提案され、承認された（承認72校・否認0校）

Ⅱ 2020年度事業報告（2020.4から2021.3）

Ⅱ-1 役員会議事録

1) 2020年度 第1回役員会議（新旧役員会）

日時：3月15日（日）10:30～16:00

場所：国際医療大学赤坂キャンパス

出席者：荒木田、遠藤、大川、鎌塚、下村、高橋、竹鼻、松枝、亀崎、鈴木、三森
議事

- ① 次年度の体制（理事退任、新役員等）についての説明
- ② 役員交代による役割分担について
- ③ 役員の引継ぎ

2) 第2回役員会議

日時：4月26日（土）10:00～12:30（オンライン会議）

出席者：池添、遠藤、鎌塚、亀崎、下村、鈴木、竹鼻、松枝、三森（記録：大川）
議事

- ① 2020年度の総会及び教育フォーラム・セミナーの開催方法の検討
- ② 活動報告書について
- ③ コアカリについて
- ④ 教育フォーラム、セミナーについて
- ⑤ 養護実習や教育実習に関する情報共有

3) 第3回役員会議

日時：5月23日（土）10:00～12:00（オンライン会議）

出席者：池添、遠藤、大川、亀崎、鎌塚、下村、鈴木、竹鼻、松枝、三森
（記録：三森）

議事

- ① 6月14日オンラインミーティングについて
- ② ニュースレター計画
- ③ 各委員会の活動報告（カリキュラム・養成制度、ファカルティディベロップメント、広報・渉外）
- ④ 文部科学省からの通知について
- ⑤ 活動報告書・総会資料について

4) 第4回役員会議

日時：2020年7月11(土)9:00~11:30(オンライン会議)

出席者：池添、遠藤、大川、亀崎、鎌塚、下村、鈴木、竹鼻、松枝、三森

(記録：亀崎)

議事

- ① 総会方法についての検討
- ② 総会資料構成案についての検討
- ③ 活動報告書入稿スケジュール及び各会員校への送付計画案について
- ④ ニュースレター計画について
- ⑤ 6月14日ZOOM会議の振り返り
- ⑥ 各委員会からの活動報告(カリキュラム・養成制度、ファカルティディベロップメント、広報・渉外)
- ⑦ 日本養護教諭関係団体連絡会の活動の報告
- ⑧ 選挙管理委員会報告

5) 第5回役員会議

日時：2020年9月5日(土)9:00~11:00(オンライン会議)

出席者：池添、遠藤、大川、鎌塚、亀崎、下村、鈴木、竹鼻、三森(記録：鈴木)

議事

- ① 総会の方法及び今後のスケジュールについての検討
- ② 来年度総会等日程等の確認
- ③ 各種委員会からの活動報告(カリキュラム・養成制度、ファカルティディベロップメント、広報・渉外)
- ④ 養護教諭関係団体連絡会からの報告

6) 第6回役員会議

日時：2021年2月28日(日)9:30~11:30(オンライン会議)

出席者：池添、遠藤、大川、鎌塚、亀崎、下村、鈴木、竹鼻、松枝、三森

(記録：亀崎)

議事

- ① 事業活動報告書2020年度の発行計画案について
- ② 2020年度会員登録及び会費請求書
- ③ 基本調査について
- ④ 総会、セミナー、フォーラムの内容案について意見交換
- ⑤ 委員会メンバーの募集についての検討
- ⑥ ニュースレター発行計画について
- ⑦ 委員会の活動報告(カリキュラム・養成制度、ファカルティディベロップメント、

広報・渉外)

- ⑧ 会員校等の状況報告
- ⑨ 養護教諭関係団体連絡会報告

(文責：鎌塚優子)

II-2 2020年度基本調査

2020年度基本調査は、7月下旬現在、加盟大学総数137大学中131大学から回答を得た（回答率95.6%）。基本調査の内容は、課程認定を受けている大学院・学部・短期大学・特別別科・専攻科等の機関名，入学定員・入学者数・養護教諭免許状取得者数ならびに編入制度の有無，研修に関する項目とした。

1) 4年制大学：123大学から回答があった（複数の学部・学科あり）。

| | 入学定員 | 2020年度入学者数 | 2019年度免許取得者数 |
|-----|--------------|---------------|--------------|
| 合計 | 10113 (9790) | 10562 (10700) | 2109 (2352) |
| 平均 | 86.4 (84.3) | 90.3 (84.3) | 17.3 (20.0) |
| 最大値 | 330 (310) | 317 (310) | 86 (98) |
| 最小値 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |

() 内は2019年度基本調査

2) 短期大学：7短期大学から回答があった。

| | 入学定員 | 2020年度入学者数 | 2019年度免許取得者数 |
|-----|-------------|-------------|--------------|
| 合計 | 345 (297) | 307 (314) | 171 (190) |
| 平均 | 49.3 (42.4) | 43.9 (44.9) | 24.4 (27.1) |
| 最大値 | 70 (70) | 60 (67) | 55 (58) |
| 最小値 | 15 (12) | 27 (19) | 8 (12) |

() 内は2019年度基本調査

3) 大学院：41大学の大学院より回答があった。入学定員は、他の専修と合わせて決められている大学院が多いが、2020年度の入学者数は合計144名（最大25名，最小0名）であった。2019年度の免許状取得者数は合計39名（最大4名，最小0名）であった。

4) 専攻科：1種免許状を取得できる専攻科の6大学から回答があった。

| | 入学定員 | 2020年度入学者数 | 2019年度免許取得者数 |
|-----|-------------|------------|--------------|
| 合計 | 88 (75) | 61 (43) | 43 (27) |
| 平均 | 12.6 (12.5) | 8.7 (7.2) | 6.1 (4.5) |
| 最大値 | 20 (20) | 33 (19) | 22 (15) |
| 最小値 | 5 (5) | 0 (0) | 0 (0) |

() 内は2019年度基本調査

5) 特別別科：4大学の特別別科から回答があった。

| | 入学定員 | 2020年度入学者数 | 2019年度免許取得者数 |
|-----|-------------|-------------|--------------|
| 合計 | 160 (200) | 155 (175) | 148 (167) |
| 平均 | 40.0 (40.0) | 38.8 (35.0) | 37 (33.4) |
| 最大値 | 40 (40) | 41 (44) | 40 (41) |
| 最小値 | 40 (40) | 35 (20) | 31 (21) |

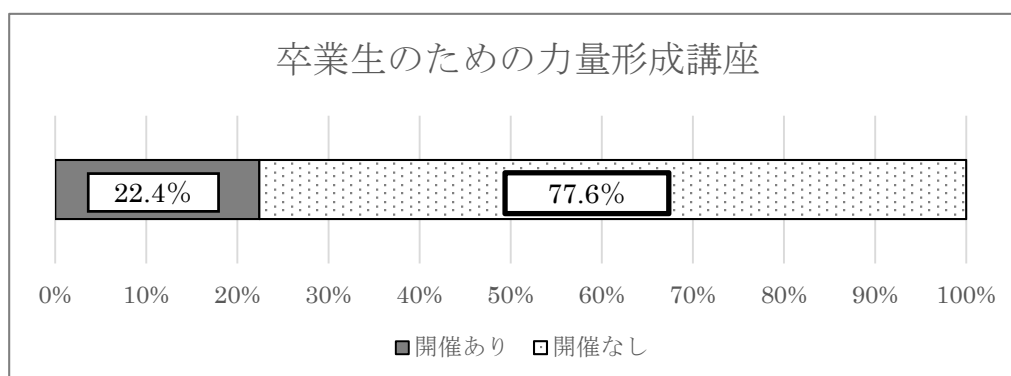
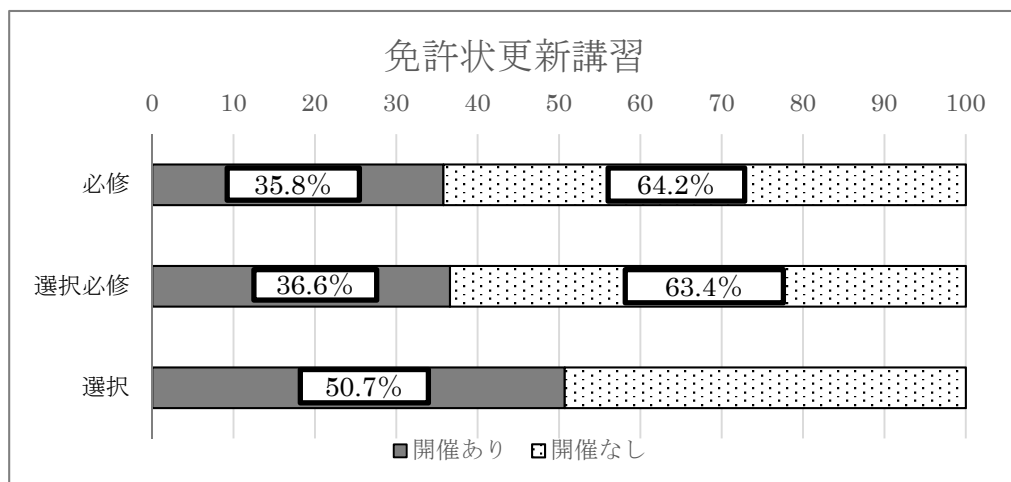
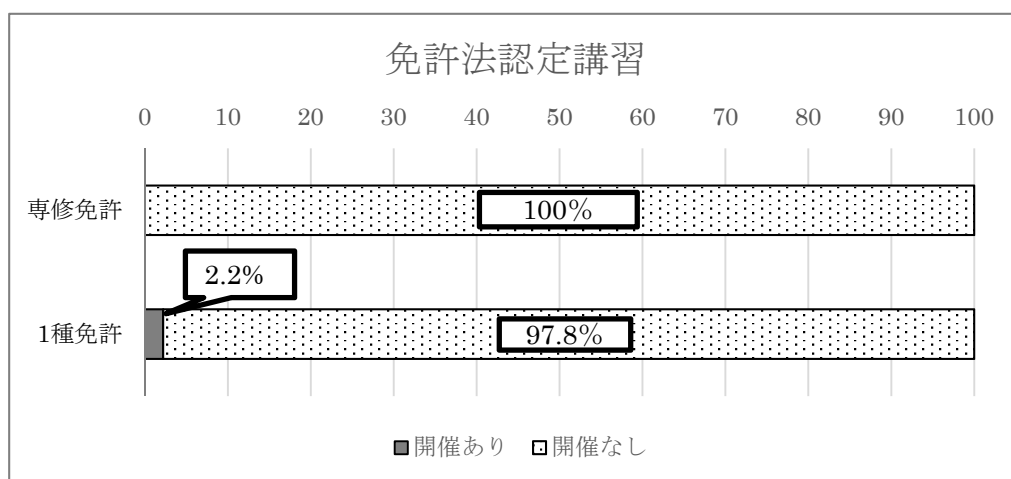
() 内は2019年度基本調査

6) 編入制度の有無

編入制度あり24大学

| | 入学定員 | 2020年度入学者数 |
|-----|------|------------|
| 合計 | 130 | 67 |
| 平均 | 6.5 | 1.7 |
| 最大値 | 30 | 10 |
| 最小値 | 0 | 0 |

7) 講座・研修等の開設状況



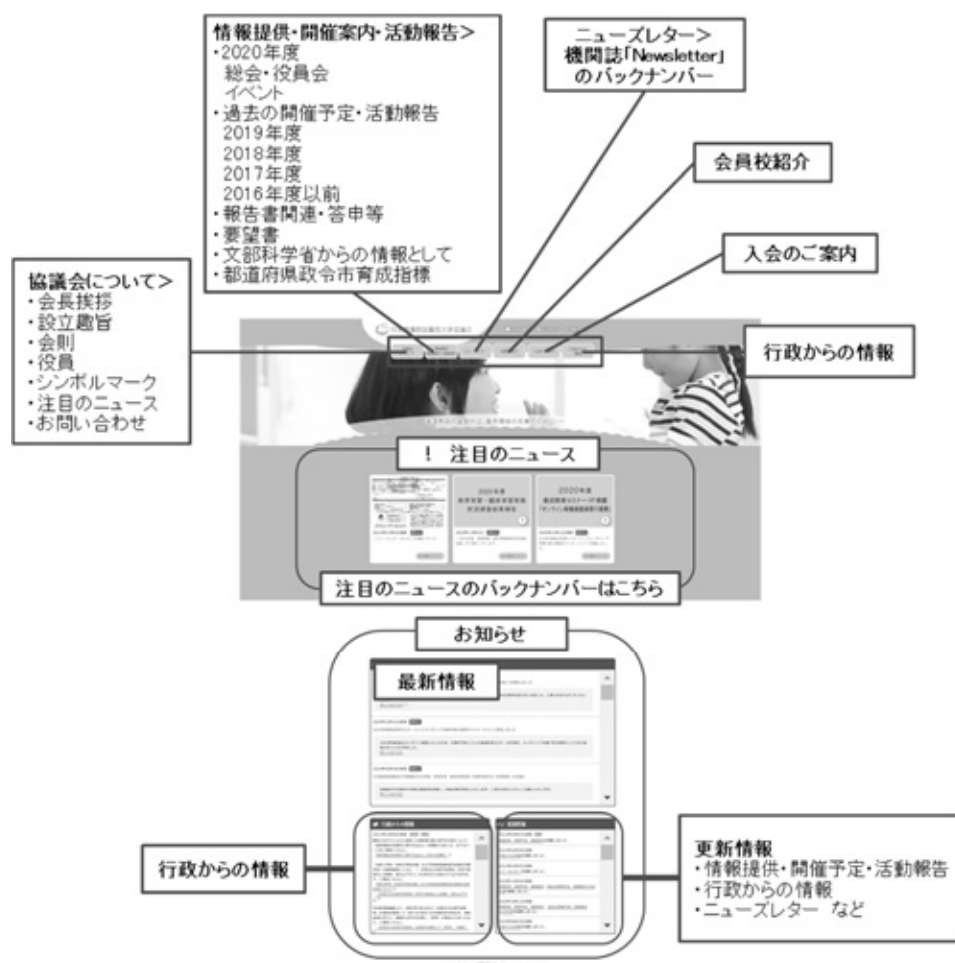
Ⅱ - 3 ホームページ報告

本協議会のホームページは、広報・渉外委員会を中心に、本会の活動報告や会員校の参考になる得る最新情報を迅速に情報配信するようにしている。

ホームページは、以下のように構成されている。ホームページ上部のタブからでも、中央部の「注目のニュース」からでも、下部の「お知らせ」のゾーンからでも、必要な情報に入っていけるようになっている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、「行政からの情報」を随時掲載した。加えて、緊急開催したオンラインミーティングや2020年オンライン総会に関する速報、FD委員会による2020年度養成教育セミナー「オンライン教職実践演習の展開」を「注目のニュース」に掲載した。また、養成制度委員会・カリキュラム検討委員会による「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）」と、会員の皆様にご協力をいただいた「2020年度養護実習・臨床実習実施状況調査結果」報告書を「注目のニュース」に加えて「情報提供・開催案内・活動報告」の「報告書関連・答申等」に掲載し、いつでもダウンロードできるようにした。今後、ホームページを通じてより有用な情報配信に努めていきたい。

(広報・渉外委員会)



日本養護教諭養成大学協議会ホームページ：<http://www.j-yogo.jp/>

II-4 ニュースレター報告

ニュースレターを3回（Vol.42～44）発行した。
主な内容は下記のとおりである。

Newsletter Vol.42（2020.07.30発行）

協議会会長挨拶：遠藤伸子（女子栄養大学）

オンラインミーティング開催報告：池添志乃（高知県立大学）

第1分科会「養護実習・教育実習」報告：

大川尚子（京都女子大学）下村淳子（愛知学院大学）鈴木裕子（国土舘大学）

第2分科会「学内の演習や実技科目・授業全般」報告：

松枝睦美（岡山大学）鎌塚優子（静岡大学）

第3分科会「病院実習」報告

亀崎路子（杏林大学）三森寧子（千葉大学）

各種委員会報告

役員交代について

新規加盟大学の紹介：兵庫県立大学（古川恵美・池田雅則）

協議会活動報告：鎌塚優子

理事選出の選挙について

会計より：下村淳子

Newsletter Vol.43（2020.12.27発行）

協議会副会長挨拶：竹鼻ゆかり（東京学芸大学）

2020年度オンライン総会を終えて

オンライン総会を終えて：遠藤伸子（女子栄養大学）

2020年度総会報告：池添志乃（高知県立大学）

2020年度養成教育セミナー「オンライン教職実践演習の展開」報告：

F D検討委員会 松枝睦美（岡山大学）鎌塚優子（静岡大学）

2020年度養護実習・臨床実習 実施状況調査結果：池添志乃、鎌塚優子、三森寧子
養護実習等への対応の実践例：

実習代替策の検討 岩田浩子（城西国際大学）

実習短縮に備えた補填策の検討 八木利津子（桃山学院教育大学）

養護教諭関係団体連絡会の活動報告：遠藤伸子（女子栄養大学）

協議会活動報告：鎌塚優子

役員選挙結果の報告：選挙管理委員長 高橋佐和子

会計より：下村淳子

Newsletter Vol.44 (2020.12.27 発行)

協議会副会長挨拶：池添志乃（高知県立大学）

各種委員会活動報告

中央教育審議会答申『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して』が出されました：

亀崎路子（杏林大学）

協議会活動報告：鎌塚優子

退任にあたって：下村淳子（愛知学院大学）

日本養護教諭関係団体連絡会活動報告：遠藤伸子

会計より：下村淳子

ニュースレターが有益な情報の提供及び会員大学の相互の情報交換の場となり、多様な養護教諭養成教育がより充実したものとなるよう、引き続き取り組んでいきたい。

（広報・渉外委員会）

II-5 日本養護教諭養成大学協議会オンラインミーティング報告

—新型コロナウイルス感染症対策のなかで、 養護教諭養成大学における教育の質をどう保証するか—

会 長 遠藤伸子（女子栄養大学）

副会長 池添志乃（高知県立大学）、竹鼻ゆかり（東京学芸大学）

1. 開催の趣旨と当日の様子

日本養護教諭養成大学協議会では、2020年6月14日（日）に、ZOOMにより、「日本養護教諭養成大学協議会 オンラインミーティング—新型コロナウイルス感染症対策のなかで、養護教諭養成大学における教育の質をどう保証するか—」を開催しました。

新年度の始まりとともに COVID-19 対策が求められるなか、文部科学省をはじめとした国の方針にのっとり、各大学では、遠隔授業や学内外の実習の対応等を行わねばならない状況となりました。対応に苦慮した大学も少なくないと思われます。本協議会にもいくつかの大学から、病院実習や養護実習等の措置に対する問い合わせがありました。

こうした状況を踏まえ、日本養護教諭養成大学協議会では、役員会で急遽、養護教諭養成大学における新型コロナウイルス感染症対策のなかでの教育の質を保証するための情報交換の場とすることを目的に、本ミーティングを開催しました。今年度は、感染症対策として、例年9月に行っている養成教育フォーラムを中止としたため、その代替としても本ミーティングが会員の皆様にとって有意義な時間となることを願っての開催となりました。

当日は会員校の皆様のご協力のおかげで3つの分科会に延べ200名余りの方にご参加いただき、活発な情報共有、意見交換ができました。各養成機関のもつ課題は様々ですが、各校の工夫を凝らした取り組みは、今後も継続する COVID-19 対策の中での教育の展開に有用であったことが伺えました。

このオンラインミーティングを通じ、協議会として、社会情勢や教育行政の動向をふまえながら、多様な教育背景をもつ養成大学が相互に学び合える企画を検討し、養護教諭養成における質の向上、充実に貢献していく使命を実感しました。今後も継続する COVID-19 対策の中で有用な情報等を発信して参ります。

ご参加、ご協力いただきました皆様に、改めて感謝申し上げます。

2. 終了後の参加者の皆様からのアンケート結果からのミーティングの評価

ミーティング終了直後に、参加者の皆様には、オンラインミーティングに対する評価を頂くため、グーグルフォームによるアンケート調査にご協力いただきました。

その結果、表に示すとおり「役立つ学びや情報を得られましたか？」という問いに対しては、いずれの分科会でも「とても思う」「まあまあ思う」が8割程度を占め、皆様に満足いただける成果を果たせたと評価しております。

また自由記述では、有意義であったという記載が多い一方、話題を先に提示しておく、テーマを絞る、などの建設的な要望もあり、今後の参考とさせていただきます。

表 「各分科会で役立つ学びや情報が得られたか」の回答割合

| | 回答者数 | とても思う | | まあまあ思う | | どちらでもない | | 余り思わない | | 思わない | |
|-------|------|-------|------|--------|------|---------|------|--------|------|------|-----|
| | | 度数 | 割合% | 度数 | 割合% | 度数 | 割合% | 度数 | 割合% | 度数 | 割合% |
| 第1分科会 | 68 | 44 | 64.7 | 14 | 20.6 | 6 | 8.8 | 3 | 4.4 | 1 | 1.5 |
| 第2分科会 | 71 | 37 | 52.1 | 18 | 25.4 | 9 | 12.7 | 6 | 8.5 | 1 | 1.4 |
| 第3分科会 | 44 | 25 | 56.8 | 7 | 15.9 | 6 | 13.6 | 5 | 11.4 | 1 | 2.3 |

自由記述の抜粋

- ・集中して会議に参加できました。ネット会議もいいですね。
- ・たくさんの実践を学ぶことができました。ありがとうございます。皆様の実践やご意見を参考に、本学の対応を検討していきたいと思えます。
- ・学生たちの学びを保証するために悩みながら過ごしている中、このような会を計画・運営していただきありがとうございます。どの大学の先生も悩みながら工夫され、学生の力も借りながら授業を実施されている様子に元気をいただきました。ありがとうございます。
- ・第一分科会のみ参加しました。実習の期間短縮などが主な話題でしたが、そもそもなぜ期間が短縮されたかという感染拡大を防ぐことが目的なので、外部ボランティアを依頼する場合はこれまで以上に慎重にしなければならないと思えました。
- ・各大学の臨床実習について聞くことができ勉強になりました。学内の実習についても聞きたかったです。
- ・今年度の（新型コロナ影響下における）病院実習に関する各養成大学の現状と、当座の対策について伺うことができ、大変参考になりました。なお、今後の「病院実習」のあり方については、別途意見交換する機会を設ける必要があるように思われました。例えばどこまでを「病院実習」の範疇とするかなど、解釈や認識に違いがあることもわかり、共通理解の必要性を感じたりしたからです。ありがとうございました。
- ・テーマが複数（授業、学内演習等）あり、絞りづらい印象を持ちました。多くの大学で対面授業が難しい状況にあることがわかりました。
- ・課題の提示を事前に頂けると準備できたこともあったかなと感じました。たくさん情報をいただき、明日からの活力にしたいと考えます。慣れないZoom会議で長時間でどっと疲れましたが、ご準備頂いた役員の方には本当に感謝申し上げます。こうして課題を共有して話し合える場は貴重だということを再認識しました。今後も開催して頂けるとありがたいです。
- ・本学も他大学も手探りの中、工夫されていることがわかりました。本学は養護教諭養成の担当者も一人であり、途方にくれることが多いですが、他の大学の状況をお聞きし、がんばる力をいただいた気がします。今日のディスカッションでもありましたが、オンラインで使用できる動画（DVDやサイト）やアイディアを是非、HPなどで配信いただけると嬉しいです。

3. 分科会報告

当日は、次の3つの分科会を設け、会員の皆様にご参加いただいたのち、各分科会とも、2つのグループに分かれ役員が司会進行を務めながら、情報交換、意見交換を行いました。分科会の詳細を次に述べますので、参考にしていただければ幸いです。

第1分科会報告 「養護実習・教育実習」10時～11時50分

担当：大川尚子（京都女子大学）、下村淳子（愛知学院大学）、鈴木裕子（国士舘大学）

第1分科会では、2つのグループに分かれ、まず「養護実習」の現在の状況や課題等をチャットで書き込んでいただいた後、各大学の状況、その対応や工夫などを交流しました。一部の地域を除き、ほとんどの大学が実習の延期や短縮を余儀なくされていることがわかりました。

1 実習実施上の課題

地方の状況によっては実習が始まっているところもありましたが、2週間前からの自宅待機と健康観察記録のほか、フェイスシールド、ガウン、手袋、手指消毒剤等の準備が必要な学校の例や、学生が実習中に発熱した事例などが紹介され、実習が実施できても、様々な課題があることがわかりました。

2 実習延期になった場合の課題

実習が先送りになることで、実習前後の2週間の健康観察期間を考慮すると、後期の授業や看護の総合実習、教職実践演習との兼ね合いに悩む声が多く挙げられました。また後期に確実に実習できるのか、中止になる可能性への不安も挙げられました。

後期のカリキュラムへの影響を最小限にするために、コロナの影響で短縮された夏休みの前後や土日、年末年始に授業を実施するなどの例が紹介されました。学生によって実習時期にばらつきがあり、実習終了が遅い学生もいることから、教職実践演習は2月上旬になるのではないかとの見通しも紹介されました。

3 実習短縮になった場合の課題（学内実習の内容、学校体験活動の活用等）

実習短縮になった場合の不足分の補填についての課題が多く挙げられました。そして実習の代替として、模擬授業の実施、模擬保健室での養護教諭の1日のシミュレーション、仮想学校を想定した学校保健計画や保健室経営や事例の検討、大学の医務室での実習、学生・教職員の健康診断補助などのアイデアが紹介されました。

また学内実習自体が困難な状況を想定し、オンラインによる授業研究や事例検討等を工夫して実施することも検討している例が紹介されました。

学校体験活動（学校ボランティア活動）で代替する場合、その評価も含めて、事前事後指導が重要になるとの意見があり、学生の制作物やその評価の聞き取りで評価するなど、事前に指標を明確化している例が紹介されました。

さらに、実習に際して優先して実施すべき内容は何か、最低限やるべき実習の内容を協議会で検討してほしいといった意見や、今後、看護の臨地実習のオンデマンド教材のように、養護実習に関する教材化の共同開発が必要であるというご意見もありました。

各大学の工夫点や共通した悩みを具体的に共有でき、たいへん有意義な時間となりました。一方で学内では学べないことを現場で学ぶという学外実習の考え方について発想の転換の必要性も感じられました。

第2分科会報告「学内の演習や実技科目・授業全般」13時～14時50分

担当：松枝睦美（岡山大学）、鎌塚優子（静岡大学）

第2分科会ではミーティングテーマを受けて、【1. 実技科目】、【2. 演習科目とその他授業】、【3. 評価】について、変更したことや工夫したこと、今後予定していること等、話し合いを進めました。まず、【1. 実技科目】では「分かる」はできても「出来る」が難しいこと、DVD教材の少なさ、オンラインでは双方向を意識した工夫が必要なため対面より時間も手間もかかること、評価が難しいことが課題として挙がりました。オンラインにおける実践方法としては、包帯法などの看護技術はYouTubeの活用、家族や家庭用品を対象者として実施する、ペットボトルを活用した心臓マッサージ法等でした。問診はZOOMのブレイクアウトルームやLINEの活用等でした。子供の観察法では教員が動画を撮影し配信する方法が紹介されました。オンライン実技の評価方法は、学生に自分の手技を撮影させて動画を提出させる、個々の手技はオンタイムで教員が確認する等、外観的な評価を実施する工夫と、問診の記録としてLINEのデータを提出する等も紹介されました。一方で、健康診断など機器を使用する演習やロールプレイなどの健康相談はオンラインでは実施困難との意見が多くあがりました。授業を後期開講に変更する場合や対面授業を実施する場合では接触を最小限にするために、小グループでの対面授業とオンデマンドの視聴・課題を組合せて実施する方法が現実的であると話し合いました。ただし、オンライン授業では新たに準備を行う必要があること、対面授業では同じことを複数回実施する等、教員の負担増は課題として残りました。次に【2. 演習科目とその他授業】では、Teams、Zoomを活用した演習に取り組んでいる報告が多くあがりました。ここでは実際に行った感想として、ZoomのブレイクアウトルームやTeamsのチャンネルを活用し、グループミーティングで話し合いをさせてみると、学生は慣れているので活用も上手で対面よりも話し合いが活発になったことや、教室移動もないためグループ活動から全体まとめて画面上ですぐに戻れるので、時間管理が容易でグループ間の共有、まとめも短時間で実施できること、チャットやアンケート機能、画面共有による発表の簡便さに加えて、模擬授業等の準備も学生同士でファイルを画面上で共有し教材を作成できることや、One Driveで保存することで継続した共有ができることなどが利点として挙がりました。教員が学生に主体性をもたせるような介入をすることで意見交換が活発になるなど、実施上のポイントについて助言もありました。【3. 評価】では、科目ごとの教員の情報交換や連携がないことによる課題の多さや、履修学科が複数にわたる科目の問題、ネット環境が整っていない学生への配慮の必要性が課題として挙がりました。実施としては、Teamsやmanaba、Moodleの機能を活用した課題の提示と提出、出欠確認も兼ねた小テスト、授業小レポート提出や感想の提出による学生の負担の軽減への取り組みや、ピア評価を取り入れグループ指導案の作成と発表、演習や実技の課題をオンラインで共有し、学生による相互評価を行うなどの工夫も紹介されました。最後に、課題が過密にならないために学生の意見を教務課で収集する体制により、課題負担特定科目の教員に個別に注意喚起を行い配慮している大学としての取組も報告されました。

以上、皆様と課題を共有し、工夫やアイデア等の意見交換ができ、たいへん有意義な時間となりました。参加された皆様にはご協力に感謝申し上げます。

第3分科会報告「病院実習」15時10分～17時00分

担当：亀崎路子（杏林大学）、三森寧子（千葉大学）

第3分科会のテーマである「病院実習」は、大学によって状況が異なり、多様な問題が生じていることが推測されました。そこで、まず各養成機関の参加者から、① 従来の実習について、② 新型コロナウイルス感染症の影響による課題とその対応策について話題提供していただくことで、現状を共有する場を設けました。そして、教育の質の保証についての意見交換を行いました。従来の病院実習の内容は多岐にわたり、その共有だけでも大変有意義でしたが、課題や対応についてさらに深めて話し合うことができました。

1. 実習施設に関する課題

実習施設の受け入れ状況が厳しく、当面は中止、8月以降に開始、来年2月以降は予定が立たない状況等調整が難しい現状が報告されました。実習にあたっては、感染防止に関する要件（抗体検査＋健康観察簿の提出、都道府県や市をまたいだ行動をしない、規定の三層マスクの確保、マニュアル遵守）、感染防止対策について共有しました。また、感染状況による地域差もあり、受入れ可能な実習施設の少なさ、看護学生のための実習が優先される現状を踏まえ、実習不可となった場合の代替策の検討という課題が挙げられました。

2. 実習内容の再検討

実習が可能となった場合でも、学生の不顕性感染、障がい児等の感染防止の課題に対して、病院内でマスクをはずす機会を減らすこと、昼食時間や更衣室等の3密を避けるための実習時間短縮や分散、休憩室の不利用、患者さんと接触しないように見学のみとする、半日は大学か自宅での課題学習ならびにオンラインカンファレンスをするなどの工夫が共有されました。また、事後指導等でシェアリングをしてそれぞれが経験した内容を学生同士が学ぶという提案もありました。

3. 事前準備・事前指導について

マスクの準備、対面で事前指導ができないこと、学生の生活リズムの乱れへの懸念、抗体検査と予防接種のために病院に行かせられないこと、学生の感染に対する不安など多様な課題が挙がり、対応策として、実習2週間からの健康チェック表を使った学生の体調管理、ゴミ袋を使った防護服作成の紹介もありました。

4. 病院実習の代替策について

学内演習におきかえた場合について、感染防御の教育の徹底、病院スタッフによるオンライン講義、模擬事例などの課題の設定、コロナに関するレポート、ロールプレイを取り入れた演習等が共有されました。実際に、今年度すでにオンラインにシフトしている対応の紹介や、養護教諭養成を視点において施設と構築してきた講話と施設見学を中心としたプログラムをオンデマンドかオンラインで行う案も共有されました。

教育の質保証に関する意見交換では、病院実習の目標について、対象理解・人間理解、看護の基礎的知識・技術の習得、健康問題の把握・予防及び解決方法の学び、学校と医療との連携の理解、病院や施設・職種の理解、多職種連携を通じたケアの学び、生命尊厳・健康の大切さの理解、倫理的態度、養護教諭への示唆という内容を共有しました。新型コロナウイルス感染症をきっかけに、養成教育のあり方を言及する場となり、有意義な話し合いとなりました。参加された会員校の皆様には、活発な意見交換に感謝申し上げます。

II-6. 養成教育セミナー報告（WEB 配信）

本年度の養成教育セミナーは、オンラインで実施できる演習を HP に掲載し、会員校が自校で実際に使用できるように取り組んだ。

FD 検討委員会では、「実践力を高める演習の進め方ー教職実践演習で展開するー」をテーマに活動を進めており、2018 年度の会員校のニーズ調査結果から選択した「学校行事実施中に起こる傷病・災害発生の卓上訓練」、「慢性疾患を持つ児童の対応と地域・学校・家庭の連携事例」、「職業倫理に関するケースメソッド事例」を 2019 年度に演習として計画し、2020 年度養成教育セミナーの実施計画として完成させた。

なお、教育課程（カリキュラム）・養成制度（法制度）検討委員会が取り組んでいる「養護教諭養成課程コアカリキュラム養大協版（2020）」の全体目標、一般目標、到達目標との関連を示すことで、会員校への還元と協議会の活動としての一貫性を意識した。

（1）演習プログラム

日本養護教諭養成大学協議会ホームページ（2020 年 10 月 2 日掲載）

<http://www.j-yogo.jp/work/20201005-seminar-online.shtml>

会員限定ページは ID nnydk パスワード h1711 を入力

2020年度養成教育セミナーHP掲載（FD検討委員会担当）

FD検討委員会では、「実践力を高める演習の進め方ー教職実践演習で展開するー」をテーマに、教員として求められる4つの事項を授業内容で統合・形成する一方法として、養護教諭養成における教職実践演習の具体的な内容を、必要に応じて取捨選択して取り組めるよう、演習計画とその評価方法として提案したいと考え活動を展開しています。

2020年度総会はオンライン開催となったため、対面を予定していた養成教育セミナーの内容を、オンラインで実施できる演習としてHPに掲載させていただきました。

会員校の皆さまのお役にたてると幸いです。

最初にお読みください

- FD検討委員会の活動報告と趣意、オンライン演習実施説明

オンライン教職実践演習

④上演習と事例検討演習を作成しました。

- ファイルダウンロードはこちらのページから（会員限定ページ）

クリックし、IDおよびPWを入力する

以下、「オンライン教職実践演習パッケージ」から、ダウンロードができます。

2020年度養成教育セミナーHP掲載

～「実践力を高める演習の進め方ー教職実践演習で展開するー」オンライン演習パッケージ～

オンライン教職実践演習パッケージ Zipファイルによるダウンロード

- ① ① ① ①
- ② ② ② ②

上記「④上演習」で使用する【ワークシート1】、【ワークシート2】の模擬グループワークを動画により説明しています。

- ③ ③ ③ ③
- ④ ④ ④ ④

オンライン教職実践演習でグループワークに役立つサイト紹介

- ⑤ ⑤ ⑤ ⑤

<パッケージ一覧>（前ページ HP 説明内に示す①～④のファイル内容）

① 図上演習 1 回完結用

- 1.（図上演習 1 回完結用）【説明資料 1】 教員確認用；図上演習の目的等説明
- 2.（図上演習 1 回完結用）【説明資料 2】 学生へ配布用；図上演習の進行と事前学習の配布資料説明
- 3.（図上演習 1 回完結用）【配布資料 1】 学生配布用；令和〇年度校内マラソン大会実施要項
- 4.（図上演習 1 回完結用）【配布資料 2】 学生配布用；生徒情報_使用可能物品_教員人数
- 5.（図上演習 1 回完結用）【配布資料 3】 学生配布用；図上演習用マラソンコース
- 6.（図上演習 1 回完結用）【ワークシート 1】 学生配布用；教員役割表（役割記入済）
- 7.（図上演習 1 回完結用）【ワークシート 2】 学生配布用；マラソン大会事例展開（課題）
- 8.（図上演習 1 回完結用）【評価シート 1】 学生配布用；自己評価

② 図上演習 2 回完結用

- 1.（図上演習 2 回実施用）【説明資料 1】 教員確認用；図上演習の目的等説明
- 2.（図上演習 2 回実施用）【説明資料 2】 学生へ配布用；図上演習の進行と事前学習の配布資料説明
- 3.（図上演習 2 回実施用）【配布資料 1】 学生配布用；令和〇年度校内マラソン大会実施要項
- 4.（図上演習 2 回実施用）【配布資料 2】 学生配布用；生徒情報_使用可能物品_教員人数
- 5.（図上演習 2 回実施用）【配布資料 3】 学生配布用；図上演習用マラソンコース
- 6.（図上演習 2 回実施用）【ワークシート 1】 学生配布用；教員役割表（役割作成済）
- 7.（図上演習 2 回実施用）【ワークシート 2】 学生配布用；マラソン大会事例展開（課題）
- 8.（図上演習 2 回実施用）【評価シート 1】 学生配布用；自己評価

③ 事例検討演習（2 型糖尿病事例 1）

- 1.（2 型糖尿病事例 1）【説明資料 1】 教員確認用；事例検討演習の目的等説明
- 2.（2 型糖尿病事例 1）【説明資料 2】 学生配布用；演習の進行と事前学習の配布資料説明
- 3.（2 型糖尿病事例 1）【配布資料 1】 学生配布用；事例紹介
- 4.（2 型糖尿病事例 1）【配布資料 2】 学生配布用；事前学習内容
- 5.（2 型糖尿病事例 1）【ワークシート 1】 学生配布用；グループワーク①（問題への対応支援）
- 6.（2 型糖尿病事例 1）【ワークシート 2】 学生配布用；グループワーク②（支援計画立案）
- 7.（2 型糖尿病事例 1）【評価シート 1】 学生配布用；自己評価

④ 事例検討演習（倫理事例 2）

- 1.（倫理事例 2）【説明資料 1】 教員確認用；事例検討演習の目的等説明
- 2.（倫理事例 2）【説明資料 2】 学生配布用；演習の進行と事前学習の配布資料説明
- 3.（倫理事例 2）【配布資料 1】 学生配布用；事例紹介
- 4.（倫理事例 2）【配布資料 2】 学生配布用；事前学習内容
- 5.（倫理事例 2）【ワークシート 1】 学生配布用；グループワーク
- 6.（倫理事例 2）【評価シート 1】 学生配布用；自己評価

（２）演習方法と展開、評価

１）シミュレーション演習

中学校のマラソン大会を事例に、校内行事における「危機管理体制」「救急処置活動」「災害時の連携」「特別な支援を必要とする生徒の支援」に取り組むことを目的とした。

その内容は、マラソン大会を開催するにあたり、まず、校内連携として、教員で安全にマラソン大会を実施するための体制をつくることにある。その役割や配置は、大会が円滑に安全に考慮したものであること、管理職、養護教諭、保健体育教諭、担任や学年団など、それぞれの職の専門性や責務を意識し、支援を必要とする生徒への配慮があることなど、意図をもって作成できること、ならびに保護者や医療機関への連絡など、その体制で緊急時にどのように役割を担って連携し、対処できるかを考えることを目的とした。

次に、図上シミュレーション演習の特徴をオンライン演習で再現できるように、マラソンコースと校舎を画面で概観し、人物や物品等のコマを移動させながら取り組むことで、災害発生時の判断と処置、ならびに緊急時体制で教員全員が連携・協働して対応することをグループで経験することを考慮しました。以上から養護教諭が行う連携・協働について行事と災害の全体から考えることができるようにした。

この演習は２回の授業時間で実施することを想定しており、演習１回目を体制づくりのグループワーク演習、２回目をシミュレーション演習で取り組むように作成した。１回で実施する場合も考慮し、体制は準備したものを活用し、シミュレーション演習のみ実施する演習１回版も準備した。

２）事例検討演習

演習事例１は、２型糖尿病の児童の事例で、「子供理解と健康課題への支援」、「連携」、「関係諸機関との協働」に取り組むことを目的とした。

その内容は、健康診断から得られた状態から疾患への理解と必要な治療・指導を理解する知識の再確認を事前準備とし、学校生活を送る上で必要な児童への支援と医療機関との情報共有と連携、さらに、疾患とともに家庭への介入・精神的な支援、経済的支援など学校だけでは対応できない課題に、地域の専門機関を知り、連携・協働することで、継続した長期的な支援のためのチームづくりと養護教諭の役割を考えることを意識した。

演習事例２は、中学生の指導の状況から「対象理解」、「養護教諭の倫理観」に取り組むことを目的とした。子供の権利を守ることを基盤に、関わる人物の意見について立場や自分の関係性のバイアスを取り払い、多面的に情報から客観的な思考過程ですすめられること、養護教諭として連携・協働するにあたって、職業倫理が基盤にあることを意識し、子供のアドボカシーの役割を担える態度と行動について話し合いができるようにした。

３）演習の評価（自己評価とピア評価）

ルーブリック評価を採用しました。教職実践演習の目的である養護教諭を目指す学生にとって実践力を再構成する機会となるよう、取り組む演習の目的に応じて観点を設定し、獲得すべき実践力を１～４の段階で確認する自己評価をそれぞれの演習ごとに作成した。加えて、グループで取り組む演習から学ぶべき養護教諭の協働や同僚性、関わる力、表現する力などの学修評価は、グループ活動としてのピア評価を取り入れた。

(3) 会員校アンケート結果報告

1) 調査概要 (Google フォームによる Web 調査 期間: 2020 年 10 月～2021 年 3 月)

2) 属性: 23 校 (看護系: 13 校 学術系: 4 校 教育系: 5 校 短期大学: 1 校)

3) 取り組んだ教育プログラム (複数回答)

図上演習: 10 校 事例検討 (糖尿病): 15 校 事例検討 (倫理): 4 校

4) 教育プログラムへの取り組みについて (複数回答)

| 質 問 | 結果 |
|---------------------------------------|----|
| 1) 提供された教材・資料は、あなたが授業するのに役立った | 23 |
| 2) 提供された教材や資料は、あなたが授業するのに必要なものがそろっていた | 23 |
| 3) 提供された教材・資料に従って、スムーズに授業を進行することができた | 22 |
| 4) 教育プログラムの指導内容は、養護教諭の力量形成に有効なものだった | 22 |
| 5) 教育プログラムの指導方法は、養護教諭の力量形成に有効なものだった | 15 |
| 6) 教育プログラムの目標、評価は有効なものだった | 15 |

5) 学生の学修成果や学生の反応について (複数回答)

| 質 問 | 結果 |
|-----------------------------------|----|
| 1) 養護教諭の職務・使命に対する知識・理解 | 21 |
| 2) 子どもの健康課題やその支援方法に対する知識・理解 | 13 |
| 3) 学校内外の関係者・関係機関の役割に対する知識・理解 | 15 |
| 4) 子どもへの支援方法を具体的に考察できる思考力・判断力・表現力 | 13 |
| 5) 連携・協働の方法を具体的に考察できる思考力・判断力・表現力 | 15 |
| 6) 主体的に学修に取り組む態度 | 23 |

6) 自由記述 (学生からの感想と授業者としての感想)

- ・連携の大切さ、子供の人権擁護や、教員としての倫理観をきちんと持つことを学んだ。
- ・具体的な対応は自分でも大分考えることができるようになったが、グループで共有してみると、やはり一人では気が付かなかった視点がたくさん出てきた。自分はもっと視野を広く持たなければならぬと感じたし、同じ事例について複数で話し合い、他者の視点を学ぶことは大切だと思った。
- ・事例でイメージが広がるし、グループでの話し合いで視野が広がった。
- ・学生は自分のこれから経験するであろうこととして真剣に取り組んで考えることが出来たと思う。これからも、FD 検討委員会で開発されたオンライン演習パッケージを活用させていただきたいと思いました。
- ・オンラインで地図を共有する演習ははじめてで、全体がつかみやすく興味ももてた。

以上からも、会員校のニーズに即したセミナー内容であったこと、COVID-19 感染拡大防止対策として教育現場でオンライン授業が続く状況において、本養成教育セミナーは、オンライン演習の計画・実施方法の提案は、有用であったと考える。一方で、HP への掲載時期が 10 月であったこともふまえ、より活用いただけるよう掲載は継続していく。

FD 検討委員会委員 8 名: 五十音順敬称略

委員長: 松枝睦美 (岡山大学)、副委員長: 鎌塚優子 (静岡大学)、
籠谷恵 (東海大学)、加納亜紀 (就実大学)、佐藤伸子 (熊本大学)、
丹佳子 (山口県立大学)、津島愛子 (岡山大学)、山内愛 (岡山大学)

II-7 2020 年度教育実習・臨床実習実施状況調査結果報告

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大により、今年度は従来の授業や実習が実施できず、養護教諭養成教育そのものの質保証が危惧されている。そこで、本会では、各養成大学の教育実習・臨床実習実施（実施予定含む）の現在の状況ならびに実習中止や短縮のための代替え措置や教育の質保証のための取り組みの実態を明らかにし、各大学の今後の対応の参考資料となることを目的として調査を実施した。

2. 方法

日本養護教諭養成大学協議会会員校 137 校に対して Google フォームにて調査を実施し、85 校より回答を得た（回収率 62.0%）。調査項目は、養護実習、教育実習、臨床実習の実習期間ならびに実施状況、新型コロナウイルス感染症対策についてとした。調査期間は、2020 年 9 月 25 日～10 月 15 日であった。

なお調査にあたっては、画面上に調査の趣旨を記載したうえで養成機関が特定されることのないよう無記名で行い、回答をもって同意したこととみなした。

3. 結果

1) 属性

回答があった会員校の内訳は、表 1 のとおりである。看護系大学からの回答が 5 割以上あり、最も多かった。また、表 2 のとおりに、ほとんどの会員校で養護教諭 1 種免許状が取得でき、中・高等学校教員免許状 1 種免許状（保健）が取得できる会員校が約 3 割であった。

表 1 回答があった会員校の養成機関（n = 85）

| | |
|------|------------|
| 教育系 | 23 (27.1%) |
| 看護系 | 47 (55.3%) |
| 学際系 | 21 (24.7%) |
| 短期大学 | 1 (1.2%) |
| 特別別科 | 2 (2.4%) |

表 2 取得できる免許（n = 83）（複数回答）

| | |
|------------------------|------------|
| 養護教諭 1 種免許状 | 82 (98.8%) |
| 養護教諭 2 種免許状 | 8 (9.6%) |
| 中・高等学校教員免許状 1 種免許状（保健） | 24 (28.9%) |
| 中・高等学校教員免許状 2 種免許状（保健） | 3 (3.6%) |

2) 養護実習の実施状況

学年別の実習期間は、1 年次、2 年次ではほとんど実施されておらず、4 年次での 3 週間ないし 4 週間の実施が多かった（表 3-1）。今年度は、実習校の事情によって学生ごとに異

なる実施状況であったと推察するが、概ね、実習時期の変更や実習時間の短縮という対応で養護実習が実施できていた(表3-2)。また、具体的な実施内容に関する自由記述(表3-3)からは、時間数的にも内容的にも不足している部分を学内演習やリモート学習により補講するといった各養成校の工夫がみられた。このように、小・中・高の学校再開に合わせて、学校現場では概ね実習生を受け入れている現状が明らかとなった。

表3-1 養護実習の学年別実習期間 (母数が不明のため度数で示す)

| | 実施しない | 1週間 | 2週間 | 3週間 | 4週間 |
|-----|-------|-----|-----|-----|-----|
| 1年次 | 40 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 2年次 | 36 | 5 | 0 | 1 | 0 |
| 3年次 | 25 | 1 | 3 | 9 | 11 |
| 4年次 | 8 | 1 | 3 | 33 | 31 |

表3-2 2020年度養護実習の実施状況 (n=84) (複数回答)

| | |
|-----------------|------------|
| 計画通りに実施 | 29 (34.5%) |
| 時期を変更して計画通りに実施 | 44 (52.4%) |
| 一部実施し、一部代替プログラム | 37 (44.0%) |
| すべて代替プログラム | 1 (1.2%) |
| その他 | 6 (7.1%) |

表3-3 養護実習の具体的な実施内容、代替プログラム、質保証のための取り組み

- ・経験できなかった実習項目の模擬実践
- ・実習校の健康課題をもとに、保健教育の計画・実施・評価の演習
- ・現職養護教諭による遠隔授業やカンファレンス
- ・養護実習に関する実践力を高める内容及び1~3年までの養護学関連科目の復習
- ・健康・安全に関する重要な行事等がある日を実習日とすることでの学校保健活動の体験の場の設定
- ・グループディスカッションを取り入れた双方向のメディア授業の実施
- ・模擬授業の作成及び実施と振り返りのディスカッション、救急処置等の専門技術の演習
- ・養護教諭の職務の5領域を中心にしたプログラム
- ・学校ボランティアや学習指導等への参加
- ・連携高校保健室でのボランティアとしての参加
- ・実習を断られた場合の3週間の実習対応として、1週間の児童生徒がいない時間帯での実習の実施(養護教諭等の講話、保健室の補助業務・保健だより作成等)、及び2週間の学生の地元教育委員会を通じての実習の実施(学習支援活動への参加、養護教諭の健康診断や学級活動の支援、保健指導や保健の授業の補助、来室者対応、校長講話等)
- ・実習校より視聴覚教材を借り学内での補講もしくは配信
- ・リモートによる学内演習後に自己学習させ、口頭試問による評価の実施
- ・卒業研究の一環として4週間の養護実習を位置づけ実施
- ・教育委員会、附属学校園のオンデマンド講話
- ・模擬授業指導案作成や教材教具の作成、保健だよりの作成、演習(感染症対策、救急処置、健康診断、環境検査、健康相談など)の実施
- ・遠隔による保健指導、技術練習・チェック等の実施
- ・オンラインによる演習形式として、養護実践を中心とする学校教育全般について、具体的なケースに即して対話的に学びを深めることができる同期型授業の設計
- ・子どもの健康課題に関するシミュレーション研修、救急を含めた事例検討
- ・テーマ(救急処置、保健教育、保健指導、健康相談、健康診断等)に関連する視聴覚映像の視聴、事例を用いたグループワーク、ロールプレイング、模擬授業等(実施予定)
- ・近隣の小学校へのフィールドワークの依頼予定

3) 教育実習の実施状況

学年別の実施期間は、4年次において3週間実施が最も多かった(表4-1)。実施状況については、養護実習同様に、時期の変更や実習時間数が短縮したが、予定通りに実施または実施予定という回答が多かった(表4-2)。短縮した分については、事前学習をオンラインで実施したり、教材研究や模擬授業等を学内演習で補講したりといった代替プログラムが実施されていた(表4-3)。

表4-1 教育実習の学年別実習期間 (母数が不明のため、度数で示す)

| | 実施しない | 1週間 | 2週間 | 3週間 | 4週間 |
|-----|-------|-----|-----|-----|-----|
| 1年次 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2年次 | 8 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 3年次 | 8 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 4年次 | 2 | 0 | 4 | 13 | 5 |

表4-2 2020年度教育実習の実施状況 (n=27) (複数回答)。

| | |
|-----------------|------------|
| 計画通りに実施 | 8 (29.6%) |
| 時期を変更して計画通りに実施 | 17 (63.0%) |
| 一部実施し、一部代替プログラム | 11 (40.7%) |
| すべて代替プログラム | 1 (3.7%) |
| その他 | 3 (11.1%) |

表4-3 教育実習の具体的実施内容、代替プログラム、質保証のための取り組み

- ・ 外部講師を招いての指導案作成及び模擬授業等の学内演習の実施
- ・ 近隣小学校などへのボランティアとしての参加
- ・ オンラインによる事前指導の実施、一部 Zoom による実習
- ・ 教育実習総論、教材研究・模擬授業、生徒理解、特別支援、特別研究などのテーマでの学内での授業の実施
- ・ 養護施設実習での宿泊の中止し、日帰りに変更及び学内演習の実施
- ・ 実習に当たり、実習前居住地での2週間の健康観察及び行動の記録の義務づけ

4) 臨床実習の実施状況

臨床実習は、2年次ないし3年次に2週間実施という養成校が多かった(表5-1)。実施状況としては、医学生や看護学生の受け入れも厳しい実習病院の状況により、学内演習もしくはリモート学習による代替プログラムで実施している養成校が多かった(表5-2)。視聴覚教材の活用や実習病院のスタッフによるオンライン講話などメディア授業による実習

を実施するなどさまざまな工夫が行われていた（表 5-3）。

表 5-1 臨床実習の実施状況（母数が不明のため、度数で示す）

| | 実施しない | 1 週間 | 2 週間 | 3 週間 | 4 週間 | 4 週間以上 |
|------|-------|------|------|------|------|--------|
| 1 年次 | 16 | 7 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 2 年次 | 9 | 4 | 17 | 2 | 1 | 0 |
| 3 年次 | 6 | 9 | 15 | 4 | 4 | 10 |
| 4 年次 | 16 | 1 | 4 | 3 | 0 | 4 |

表 5-2（n = 58）（複数回答）

| | |
|-----------------|------------|
| 計画通りに実施 | 14 (24.1%) |
| 時期を変更して計画通りに実施 | 3 (5.2%) |
| 一部実施し、一部代替プログラム | 34 (58.6%) |
| すべて代替プログラム | 11 (19.0%) |
| その他 | 3 (5.2%) |

表 5-3 臨床実習の具体的実施内容、代替プログラム、質保証のための取り組み

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内の動画、病院の実習担当医師や看護師等スタッフや外部講師によるオンライン講義 ・ 施設の小児専門看護師による Zoom での講義、その後学びのディスカッション ・ DVD など視聴覚教材による学内演習：小児病棟での実習の実際、バイタルサイン測定、スタンダードプリコーション、喘息発作で入院した小児の看護事例、川崎病で入院した小児の看護事例、ネフローゼ症候群で入院した小児の看護事例、急性胃腸炎で入院した小児の看護事例、重症心身障害児等を利用した研修など ・ クリニックや関連施設の見学実習 ・ 人形を使った学内演習やフィールドワークによる観察実習 ・ 感染管理認定看護師による「感染予防対策研修」と訪問看護認定看護師の退院支援と訪問看護に関する講話をもとに、グループワークを実施し、個人で課題を提出 ・ 同時双方型のメディア授業を活用したディスカッションの実施 ・ ケアリングの理解（①看護倫理の概要とケアリング、②ケアリングの理論家と理論的根拠）、病気を持つ子どもの理解及び学校生活での留意事項の検討、病気の子どもの心の理解及び学校生活での留意事項の検討、養護教諭としての病気に罹患している子どもへ支援（①肥満、②白血病、③腎疾患、④潰瘍性大腸炎・クローン病の子どもの養護計画の立案）、学校における医療的ケアの必要な児童生徒等への対応についての理解、学校における感染管理、学校における新型コロナウイルス感染症予防対策をテーマとした内容を含む代替プログラムの立案、メディア授業及びグループワークの実施 ・ 質保証を図るため、「臨床実習の手引き」を活用し、病院での実習内容をイメージさせながらの Teams でのメディア授業、グループワークの実施 ・ 学生がイメージできるように現場の実状を交えた講義内容の設定 ・ 実習後に合同カンファレンスを持ち、学生間で経験できなかった実習内容の共有 ・ 実習経験者（先輩）から報告 |
|---|

5) 特別別科における養護実習の実施状況

特別別科では、4 週間の実習であり、時期の変更や代替プログラム等で実施していること

がわかった（表 6-1、6-2）。表は、回答が少ないため、度数で示した。

表 6-1 特別別科における養護実習の実習期間（n = 3）

| | |
|-------|---|
| 実施しない | 0 |
| 1週間 | 0 |
| 2週間 | 0 |
| 3週間 | 0 |
| 4週間 | 3 |
| 4週間以上 | 0 |

表 6-2 特別別科における養護実習の実施状況（n = 3）

| | |
|-----------------|---|
| 計画通りに実施 | 1 |
| 時期を変更して計画通りに実施 | 1 |
| 一部実施し、一部代替プログラム | 2 |
| すべて代替プログラム | 0 |
| その他 | 1 |

表 6-3 特別別科における養護実習の具体的実施内容、代替プログラム、質保証のための取り組み

- ・実習時間数の短縮とその他の後期における授業の履修に関する配慮
- ・学内演習、附属学校園養護教諭講話・指導

6) 新型コロナウイルス感染症予防対策について大学から実習先に要望したこと

新型コロナウイルス感染症予防対策については、実習側と大学側との方針の共通認識を図りながら、状況に応じて実習内容や実習方法、実習期間、巡回指導のあり方等を検討し、調整を図っていた。

- ・感染拡大について互いに配慮して行うこと、柔軟に対応していくことの共通認識
- ・大学で決めた感染症対策の励行
- ・実習校への事前訪問は行わず、遠隔や電話による事前指導への変更
- ・児童生徒、職員、学生に感染者が出た場合の実習を一旦中止にすること
- ・巡回指導を中止し、電話でのあいさつへの切り替え
- ・県外の実習校に対しての状況を説明した上での訪問の中止
- ・新型コロナウイルス感染症対策についての確認、大学の方針とのすりあわせ
- ・学生は健康観察記録(検温)と行動記録を実習期間中、実習日ごとに管理職及び指導担当養護教諭に提出し、確認の上で実習を開始すること
提出した記録等は、学生の個人情報が含まれる内容であるため、取扱に関して十分留意すること
- ・大学から指導した対策（文庫文書に基づく）についての説明文の添付
- ・基本的に実習先からの感染症対応や要望に準じる形での実施
- ・実習において子どもと飲食を共にしないこと
- ・内科的処置は見学とすること
- ・児童生徒と偶発的で濃厚接触になる活動については見学実習にさせていただくこと
- ・環境衛生に関する活動については、大学から PPE や手指衛生、バイタル機器に関する物品を持参し実施
- ・更衣室の変更
- ・学生の体調不良や 14 日間の移動制限が守れない場合の日程の変更依頼

4. まとめ

今年度の養護実習、教育実習、臨床実習ならびに特別別科における養護実習についてその実施状況について調査した結果、学校現場では時期の変更や期間の短縮といった措置のもとで養護実習や教育実習を実施したり、予定したりしていた。また、臨床実習も病院での実習が難しい中で、学内演習に切り替え、実習病院のスタッフの協力を得たり、視聴覚教材を活用したりしながらさまざまな工夫のもと、教育の質保証のために多様な取り組みがされていた。このような柔軟な対応がとれたことは、実習校や実習施設が、養成教育に対して理解を示していることや、日ごろの連携によるものと推測される。

また、どの養成校も実習校と学生の安全の確保を考慮しながら、いかに学習目標を達成しうる実習とするか、その内容や方法を検討していた。

本結果から、養成教育はできる限りの工夫や柔軟な対応を行っていたことのみならず、新型コロナウイルス感染症対策により、新たな学習方法の探求ができたこと、教員にとっても学生にとっても今後活かせる大きな学びと経験知になったことが示唆された。

(「教育実習・臨床実習実施状況調査」担当 池添志乃、鎌塚優子、三森寧子)

2020年11月1日

日本養護教諭養成大学協議会 役員
会 長 遠藤伸子 (女子栄養大学)
副会長 池添志乃 (高知県立大学)
竹鼻ゆかり (東京学芸大学)
理 事 大川尚子 (京都女子大学)
鎌塚優子 (静岡大学)
亀崎路子 (杏林大学)
下村淳子 (愛知学院大学)
鈴木裕子 (国土館大学)
松枝睦美 (岡山大学)
三森寧子 (千葉大学)

Ⅲ 検討委員会報告

Ⅲ－１ 教育課程（カリキュラム）・養成制度（法制度）検討委員会

１．今年度の活動内容

教育課程（カリキュラム）・養成制度（法制度）検討委員会では、昨年度、これまでの検討委員会の成果を生かして、各大学の養成教育へ生かすことのできる本協議会独自の「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」を作成した。

「養大協版コアカリ 2020」は授業内容の 70%を網羅する到達目標を提示し、コアカリキュラムの内容を各大学の養護教諭養成課程のカリキュラムの中に盛り込むことが重要と考え、残りの 30%で各大学の独自の内容を盛り込んでいただきたい。

この「養大協版コアカリ 2020」を活用することで、どのような学問体系を基盤とする養護教諭養成課程においても、養護教諭が卒業時に習得しておくべき力の明確化を図ることができ、養護教諭の資質の担保につながると考える。

また、本協議会として、「養大協版コアカリ 2020」を公表することは、教育系、看護系、学際系が加入する協議会の合意で出すものであり大きな意義を持つと考え、今後、さらに周知を図ると共に、定期的に修正を実施していく必要があると考えている。

今年度の検討委員会の活動は、コアカリキュラムの効果的な活用方法を検討するとともに、コアカリキュラムの周知、情報の拡散を狙って、学会発表や学会誌投稿をする方向で考えた。コロナ禍で多くの学会が中止やオンラインとなったので、学会発表は今後の課題とし、今年度は学会誌投稿に取り組んだ。コアカリキュラムの効果的な活用方法の提案を紹介する。

２．今年度の活動報告

第 1 回委員会

日時：5 月 24 日（日）10 時～12 時 20 分

場所：Zoom によるオンライン会議

出席者：大川、下村、青柳、池添、上原、大野、奥田、亀崎、上村、後藤、竹中、高田、平井 記録：平井

議題：1. 養護教諭養成課程コアカリ（養大協版）2020 の活用方法について

（1）活用例の検討

（2）活用例のまとめ及び提示

2. 養護教諭養成課程コアカリ（養大協版）2020 の周知及び情報拡散について

第 2 回委員会

日時：11 月 1 日（日）9 時～11 時

場所：Zoom によるオンライン会議

参加者：大川、下村、青柳、池添、上原、大野、奥田、亀崎、上村、後藤、竹中、高田
欠席者：平井 記録：奥田

議題：1. 論文「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020 の作成」の投稿と内容について

（1）経過と今後の予定

2. 活用例について

第3回委員会

日時：11月23日（祝）15時～17時

場所：Zoomによるオンライン会議

出席者：大川、青柳、上原、奥田、亀崎、上村、後藤、竹中、高田

欠席者：池添、大野、下村、平井 記録：青柳

議題：1. 役員会等の意見をふまえた投稿論文の内容検討

2. 今後の作業内容とスケジュール

第4回委員会

日時：2021年3月28日（日）10時～12時

場所：Zoomによるオンライン会議

出席者：大川、青柳、池添、上原、奥田、亀崎、上村、後藤、竹中、高田

欠席者：下村、大野、平井 記録：上村

議題：1. 論文投稿の査読結果

2. 活用例の確認

3. 来年度にむけて

◎委員長 大川尚子（京都女子大学） ○副委員長 下村淳子（愛知学院大学）

委員 青柳直子（茨城大学）、池添志乃（高知県立大学）、上原美子（埼玉県立大学）、

大野泰子（広島文化学園大学）、奥田紀久子（徳島大学）、亀崎路子（杏林大学）、

上村弘子（岡山大学）、後藤多知子（愛知みずほ大学）、竹中香名子（名古屋学芸大学）、

高田恵美子（畿央大学）、平井美幸（大阪教育大学）

<養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大教版）2020の活用方法>

教育課程（カリキュラム）・養成制度（法制度）検討委員会

養護教諭の実践に求められる力を育成するために養成教育を可視化し、会員校の行う教育の質を高めることを目的に、日本養護教諭養成大学協議会独自の「養大協版コアカリ2020」を作成した。

協議会の会員校は多様な学問体系で養護教諭を養成しており、どの大学でも教育することができるコアカリキュラムを作成するために、各都道府県・政令指定都市の養護教諭の育成指標も見据え、時代の背景を考えながら作成した。

各大学の実情に応じて、工夫しながら「養大協版コアカリ2020」を活用していただきたい。以下に活用例を提案する。

1. 日本養護教諭養成大学協議会加盟大学等において養護教諭が卒業時に習得しておくべき力の明確化

- ・養護教諭養成大学等において養護教諭が卒業時に習得しておくべき力が明確になり、共通理解を図ることができる。
- ・複数の学科やコースで養護教諭を養成している大学における活用として、同じ大学の学生に、同じ教育が施されているかを確認するものとして活用できる。
- ・養護教諭養成をする学科等が複数ある場合は、関係教員が共通理解のもと方向性が見いだせる。所属する学科等で、履修科目が異なっている場合、できる限り「養大協版コアカリ 2020」を踏まえた共通した科目を履修できるように時間割の調整を行う。
- ・看護系大学コンピテンシーと「養大協版コアカリ 2020」を関連付けた教育ができることにより、ある程度、統一された力量のある養護教諭養成が期待できる。
- ・看護系大学における看護師課程と教職課程を含めたカリキュラム改正における活用として、看護師課程は最低限 102 単位を履修する必要がある中で、教職課程のカリキュラムを統合していく際に、最低限これだけは入れる必要があるという根拠を示す際に活用でき、各科目担当者が、養護教諭の専門性を考えながら教育に当たることを意識してもらえる。
- ・養護教諭養成大学間での活用として、「養大協版コアカリ 2020」の中身である授業内容をさらに検討して、コンセンサスを作ることが重要である。この枠組みを共通の概念として、中身を検討していくことに活用できる。

2. 養護実習事前指導、事後指導における学生の自己評価内容として活用

- ・養護実習の事前と事後に学生が自己評価を行い、養護実習での学びや資質能力の育成について評価する。
- ・養護実習までに学んだ学修内容が、養護教諭として必要な基礎的な知識や技術の習得につながっているか否かを評価できる。「養大協版コアカリ 2020」キュラムにより、学修の目標が明確化されたため、カリキュラム自体の強みや弱みを評価し、自大学のカリキュラム改善に反映することができる。
- ・学内で学修した基礎的な理解や知識、技術が、養護実習を経験することで、養護実践能力の習得につながったかどうかを評価できる。養護実習で養われる資質能力を分析し、不足している部分を明確化し、教職実践演習の学修内容に追加するなどの対策を講じることができる。
- ・「養護実習の手引き」に組み込んで活用することで、大学での学習内容、各目標などの確認資料としての活用でき、実習校へ具体的な内容説明が可能となる。
- ・実習生の到達状況の事前確認、評価資料として活用する。自己評価シートを履修簿に付加し、事前・事後の自己評価を実習校側も確認できるようにする。
- ・養護に関する科目に焦点化をしているが、養護実習で具体的に学ぶことができる養護過程を意識したカリキュラムができる。特にIV群を、養護実習の目標や学生に課す自己評価に活用して、教育効果を確認することなどに活用できる。
- ・「養護実習の手引き」の実施要項に具体的に組み入れ、自治体や実習校等への説明時に活用することにより、養護実習の質を担保することができる。
- ・養護実習時に各自で不足している力を認識した上で、積極的に学びの習得に努められる。

3. 教職実践演習における活用

- ・教職実践演習において、どのような力が身に付いたか、どのような力が積み残された課題であるか、学生自身が自己評価をするとともに、その結果を、養成側の教育内容の点検にも活用することが可能である。
- ・教職実践演習においてグループワークの機会を設け、到達目標をさらに具体的に考えさせる。養護実習で経験した内容をもとに、グループごとに異なる到達目標について深く分析し、さらに全体で発表することで養護教諭に求められる実践能力を共有する。
- ・教職実践演習において、学生の自己評価指標とする。
- ・教職実践演習の履修カルテの資料とし、卒業時の各自の知識、技術の評価に活用できる。

4. 各群の到達目標に関する主要な関連科目の明確化

- ・養成時に習得している知識や技術を周知することで、専門職としての養護教諭の職責の理解が深まる。
- ・養護教諭として、求められている力や技術が明確になり、大学入学時からの目標設定ができる。
- ・各学生にとって目指す養護教諭像を描くための情報が得られる。
- ・養護教諭以外の専門領域を持つ課程においては、科目と到達目標のマトリックスを描くなどの方法で、それぞれの到達目標の主要な関連科目を明確にし、学修内容や時間の過不足を客観的に示すことができる。それによって、Ⅰ群とⅡ群については、履修内容の追加や強化を行い、養護教諭の養成に必要な学修内容の充実を図ることができる。
- ・養護概説におけるオリエンテーションの資料とする。
- ・学校看護や救急医学における指導内容の確認資料とする。
- ・ボランティアや学校インターンシップの指導内容の資料とする。
- ・卒業研究における養護教諭に関する調査資料とする。
- ・ゲストティーチャー招聘の目的や意義を明確にする資料とする。
- ・消耗品、備品等の購入を計画的に行うための資料とする。

5. 教員養成のカリキュラム開発と質的向上の参考資料として活用

- ・開設科目と「養大協版コアカリ 2020」の内容の対応表を比較することで、養護教諭養成に関わる科目の学習内容や到達目標の見直しを行うことができる。
- ・カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの洗練化、教育課程の見直しにも寄与できる。
- ・「養大協版コアカリ 2020」の到達目標を科目や実習の評価の観点として活用できる。
- ・「養大協版コアカリ 2020」を活用することで、養護教諭養成に必要な学習内容、資質・能力について他の教員と共有することができる。
- ・他の教員の養護教養成の理解につなげることができる。
- ・教育現場（実習校等）や教育委員会との情報共有する際のツールとして活用することができ、連携した養護教諭養成につなげることができる。
- ・統合カリキュラムで教育を行っている大学であれば、他の教員に「養大協版コアカリ 2020」を共有し、理解しておいてもらうことで他の科目と連動して教育を行うことができる。

- ・理論と実践との往還を意識したカリキュラムの構築につなげることができる。
- ・授業者の自己評価の指標とする。
- ・「養大協版コアカリ 2020」の到達状況に関する情報は、大学独自の科目設定の見直しを図る資料として活用できる。
- ・各大学において養成課程のカリキュラム改正の際の科目選定参考資料とする。
- ・ミニマムな必修科目、選択科目において、「養大協版コアカリ 2020」の内容が包括できているかの確認や新設科目が必要ではないかの確認ができる。
- ・各大学において養成課程のカリキュラムマップ作成の参考資料とする。
- ・各大学の専門科目担当者間で、養成課程への社会的ニーズに沿った内容を修得させられるかどうかの参考資料とする。どの科目に「養大協版コアカリ 2020」の項目内容を入れるか話し合いのベースとする。
- ・各大学の専門科目の評価の参考資料とする。
- ・各大学の養成教育での専門科目開講の特徴を知ることにつなげる。何が強みで養成しており、弱い内容はどこかの判断の参考資料とする。
- ・「養大協版コアカリ 2020」は、養護教諭独自の判断と対応を学ぶことが明確に入っていることが、今回の特徴であり重要な点である。今後は、「養大協版コアカリ 2020」に基づいて何を学習させるか、どのように教えるか、養成する側が、共有していくことが必要である。
- ・半年～1年ごとに実施している学年担任における個人面談で活用する。半年間の学びの振り返りにおいて活用できる（定期的な自己評価）。

6. シラバス作成に活用

- ・「養大協版コアカリ 2020」の全体目標・一般目標・到達目標の文言は、シラバスの内容（1回ごとの授業内容など）を作成する際の参考になる。シラバス作成の際に一部の内容は含まれていても、到達目標を見ると一部不足しているなどに気づくことが可能で、追加することができる。
- ・担当科目のシラバス作成、自己点検（授業アンケート調査結果も加味）での活用が考えられるが、確認指標例が必要。
- ・自己点検結果について、養成に関わる専任教員 FD での共有および改善策の検討に活用することで、非常勤講師においても情報を共有することが可能となる。
- ・講義目的、授業内容、成績評価方法・基準、準備学修等の執筆の参考にする。
- ・教科書、参考図書を選定の資料とする。
- ・科目間連携の指標とする。
- ・シラバスを作成する時期に、養護に関する科目を担当する関係教員に、受け持つ科目のシラバスに沿って、授業で教える内容の中に、「養大協版コアカリ 2020」の内容が含まれているかどうか、点検をしていただくことができる。
- ・関係する教員間で、授業内容について、協議する機会を持つことにつなげる。
- ・教職大学院での活用として、実習系科目の事前指導・事後指導で活用できる（目標の確認、自己評価、振り返り、ディスカッション）。
- ・大学の養護教諭養成における広報として活用する。

- ・科目の新設や統合の資料とする。
- ・養護教諭養成のための設備や予算、人的配置の改善資料とする。
- ・オープンキャンパスの資料とする。

7. 他領域の専門職養成間での活用

・教師教育以外に、医学教育、薬学教育、看護師教育、保健師教育、あるいは、社会福祉士、法曹、保育士、心理士、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等、専門職においてプロフェッショナリズムをどのように培っているのか、を検討する枠組みに活用できる。他の専門職が、どのようなカリキュラムイメージを持っているのか、比較検討するとよい。

8. 文部科学省・教育委員会等の行政機関や養護教諭研究団体との連携において活用

- ・育成指標改善のための資料とする。
- ・育成指標と連動した内容構成となっているのか（採用側から見て、必要とされる内容となっているのか）という点について、各自治体内の養成校と自治体とで、定期的に検討・改善を図るシステムがあるとよい。
- ・現職養護教諭の自己評価の指標とする。
- ・養護教諭の資質能力把握のための調査資料とする。
- ・新規採用者研修や現職研修、免許更新講習、オンライン研修等の資料とする。
- ・採用試験における評価観点の資料とする。
- ・免許法改正等の基礎資料となる調査に活用する。
- ・指導用書籍、DVDの作成資料となる。
- ・教職課程認定の資料とする。
- ・編入等の場合、単位認定等の資料とする。
- ・管理職や他職種が養護教諭を理解するための資料とする。

9. 全国の養成大学でのチェック結果により、教職課程の現状の一端が把握できる。

・養成課程は、教育学部の資格養成コースに限定されていない。多様な機関で国立私立を問わず養成され、国立の教育学部養成が縮小される傾向、採用試験では多様な学部学科の学生が採用される現状を受け、現実として、協力して養成のあり方を検討していく上での参考資料とする。

Ⅲ-2 ファカルティ・ディベロップメント(FD)検討委員会

テーマ「実践力を高める演習の進め方ー教職実践演習で展開するー」

1) 活動の趣旨

Faculty Development (以下、FD とする。) 検討委員会では、「実践力を高める演習の進め方ー教職実践演習で展開するー」をテーマに、教員として求められる4つの事項を授業内容で統合・形成する一方法として、養護教諭養成における教職実践演習の具体的な内容を、必要に応じて取捨選択して取り組めるよう、演習計画とその評価方法として提案したいと考えた。最終学年に位置づけられる「教職実践演習」は養護教諭を目指す学生にとって不得意分野の克服と得意分野の伸長などの自己課題に取り組むことにより、実践力を再構成する機会ともなる。FD 検討委員会では、養護教諭の実務を支え、実践的対応の裏付けとなる法規や服務の実際、現代的な問題としての具体的対応を考えた演習を立案するにあたり、教育課程(カリキュラム)・養成制度(法制度)検討委員会が取り組んでいる「養護教諭養成課程コアカリキュラム」の全体目標、一般目標、到達目標に関連することを示すことで協議会の活動として一貫性を意識した。

以上からも日本養護教諭養成大学協議会として教職実践演習の充実を図ることは、全国の養護教諭養成教育における教育方法のあり方に視座を与え、今後の発展に寄与することができると思う。

2) 今年度の活動報告

①2020年度活動報告

それぞれの養成大学における到達目標等に活用可能な「学生が身に付けた資質能力の最終確認」のための多面的な評価方法の検討と「取り組みたい内容」としてニーズの高い「連携」に関する演習計画立案と「シミュレーション」に関する演習計画立案を行い、2020年度養成教育セミナーでのオンラインセミナーとして公開することを本年度の活動とした。

3) FD 検討委員会

○第1回 (Zoom 委員会)

日時：2020年5月30日(土) 10:00~13:00

- ・オンライン演習の方法および使用ソフトの検討・選択を検討した。

○第2回 (Zoom 委員会)

日時：2020年6月30日(土) 10:00~12:30

- ・オンライン演習の説明・シナリオづくりを検討した。

- ① 学校行事実施中に起こる傷病・災害発生の卓上訓練
- ② 慢性疾患を持つ児童の対応と地域・学校・家庭の連携事例
- ③ 職業倫理に関するケースメソッド事例

○第3回 (Zoom 委員会)

日時：2020年7月18日(土) 10:00~12:00

- ・「学校行事実施中に起こる傷病・災害発生の卓上訓練」のシミュレーションの方法に

関しての説明動画作成について、検討を行なった。

○第4回メール委員会

日時：2020年7月19日（土）～8月21日（金）

- ・HP掲載用として、趣旨・進行説明・シナリオ・教材・評価のパッケージ作成を行なった。

○第5回（Zoom委員会）

日時：2020年8月22日（土）10:00～12:00

- ・HP掲載のデザイン、階層等の全体像を決定した。
- ・説明動画立案の最終確認を行った。
- ・オンライン演習使用についての会員校アンケートの作成を行った。

○第6回（Zoom委員会）

日時：2020年8月30日（日）10:00～13:00

- ・シミュレーション演習の説明動画作成を行った。

○第7回（メール委員会）

日時：2020年10月10日

- ・HP掲載の内容の確認と、意見交換を行った。

○第8回（メール委員会）

日時：2020年12月1日（火）～2月26日（土）

- ・各校の使用状況と、内容の意見交換を行った。

○第9回（Zoom委員会）

日時：2021年3月22日（月）17:00～18:00

- ・3年間の活動の総括を行った。
- ・オンラインセミナーのアンケート結果について報告した。
- ・委員長より2019年度のFD検討委員会の会計報告を行い承認された。

FD検討委員会委員 8名：五十音順敬称略

委員長：松枝睦美（岡山大学）、副委員長：鎌塚優子（静岡大学）、
籠谷恵（東海大学）、加納亜紀（就実大学）、佐藤伸子（熊本大学）、
丹佳子（山口県立大学）、津島愛子（岡山大学）、山内愛（岡山大学）

Ⅲ-3 広報・渉外委員会

広報・渉外委員会は、2019年度総会において会則第11条に委員会の一つとして位置付けられた。主な活動として、ニューズレターの発行、ホームページでの情報配信を行うこととしている。

2020年度は、予定通りニューズレターを7月、12月、3月に、第42号、第43号、第44号を発行した。内容は、各種委員会報告として養成制度検討委員会・カリキュラム検討委員会から、「養護教諭養成課程コアカリキュラム(養大協版)2020」完成の報告を掲載した。FD委員会から、2020年度養成教育セミナー「オンライン教職実践演習の展開」を報告した。広報・渉外委員会からは、中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』をホームページに掲載したことを報告し、話題を紹介した。

さらに、今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの大学において授業計画の変更を迫られた状況を踏まえ、緊急に開催したオンラインミーティングの速報や、会員の皆様に協力をいただいた「2020年度養護実習・臨床実習実施状況調査結果」の報告、養護実習等への対応の実践例「実習代替案の検討」、「実習短縮に備えた補填策の検討」を掲載し、養護教諭養成の現状と課題の共有に努めた。

また、新規加盟大学の紹介、2020年度総会報告、協議会活動報告、事務局からのお知らせ、会計からのお知らせ、会長及び副会長あいさつや役員交代のあいさつ、役員選出の選挙に関する告知、役員選挙結果の報告、退任のご挨拶、日本養護教諭関係団体連絡会の活動報告などを掲載して、会員の交流や協議会の運営に関する広報に努めた。

ホームページは、本会の活動報告や会員校の参考になり得る最新情報を迅速に掲載している。今年度は、「注目のニュース」や「最新情報」に各種委員会から報告された「養護教諭養成課程コアカリキュラム(養大協版)」、2020年度養成教育セミナー「オンライン教職実践演習の展開」や、緊急開催されたオンラインミーティングの案内および報告、2020年オンライン総会に関する速報を掲載した。また、「行政からの情報」に新型コロナウイルス感染症に関連する文部科学省からの通知やQ&A等を、随時掲載した。「更新情報」に、ニューズレターの発行、情報提供・開催予定・活動報告、行政からの情報の更新を掲載した。

今後、ニューズレターとホームページを通じてより有用な情報配信に努めていきたい。

広報・渉外委員会

亀崎路子(杏林大学)、鈴木裕子(国士舘大学)

IV 養護教諭関係団体連絡会活動報告

2020年度の会議はCOVID-19感染拡大の影響によりオンライン上で行われた。

活動内容については以下に示す通りであった。

1. ホームページの開設 (<https://jytc.org/0429youbou/>)
設立趣意、活動内容、調査報告などの紹介・報告を掲載

2. 「養護教諭のコンピューター環境調査」の実施

【目的】

インターネットでの情報収集や配信、遠隔授業など多様な情報処理システムを活用できる時代となり、コロナ過において益々重要となった。養護教諭のコンピューター環境がどのようになっているかを調べることで、関係省庁への要望事項の根拠資料とすることを目的とし調査を行った。

【期間・方法】

2020年9月26日（土）より10月16日（金）に実施。オンライン上での調査

【結果概要】

回収数は534名、有効回答数は532名（有効回答99.6%）

養護教諭のコンピューター環境は、学校におけるパソコンやインターネット環境はほぼ整っているものの、個人のパソコンやスマートフォンの使用Wi-Fi環境が整備されておらず、メールの容量制限がある、オンライン会議の環境が整わない、など今後の環境整備の必要性が示された。

一方で、学校保健計画、保健室経営計画、保健だよりにおける情報発信の低さが示され、養護教諭自身がネットを通じて情報発信する意識を養う必要も示された。（詳細はホームページにて掲載）

3. 文部科学省訪問・要望書の提出

文部科学省初等中等局 健康教育・食育課課長 三木忠一氏を訪問し、コロナ過における保健室や養護教諭の状況を報告した。また、文部科学大臣宛の要望書「新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う養護教諭の複数配置並びにコンピューター環境整備について（要望）」を提出した。

（要望書はHPに掲載。全文ダウンロードが可能）

【2020年の役員構成】

会 長：日本健康相談活動学会 理事長 三木とみ子
副会長：日本養護教諭養成大学協議会 会長 遠藤伸子
会 計：日本教育大学協会全国養護部門 竹鼻ゆかり
幹 事：全国養護教諭連絡協議会 会長 浅野明美
日本養護教諭教育学会 鈴木裕子

V 規約

V-1 日本養護教諭養成大学協議会会則

(名称)

第1条 本会は、日本養護教諭養成大学協議会（以下「協議会」という。）と称する。

(目的)

第2条 本協議会は、養護教諭養成に関わる大学、短期大学（部）および大学院以下、「養護教諭養成大学」と称す。）相互の提携と協力によって学術と教育の発展に寄与し、養護教諭養成の進展に関わる高等教育機関の使命達成に貢献することを目的とする。

(事業)

第3条 目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 養護教諭養成における教育課程（カリキュラム）の研究に関する事業
- 二 養護教諭養成の制度及び法制度の検討と研究に関する事業
- 三 養護教諭養成にかかわる教員の資質向上を図る事業
- 四 養護教諭養成に関する全国的規模の情報交換、連絡協議を図る事業
- 五 養護教諭養成教育に関する社会的活動・提言に関する事業
- 六 その他、本協議会の目的を達成するための事業

(会の構成)

第4条 会員大学は、養護教諭養成に関わる「養護教諭養成大学」とする。

- 2 会員は、会員大学の養護教諭養成に関わる専任教員とする。
- 3 会員大学は、会員のうち2名以内を評議員として届ける。
- 4 会員大学は、毎年度5月末日までに、必要事項を所定の様式により会長に届け出る。
- 5 役員会は、入会を申し出た大学について審査の上承認する。
- 6 退会を希望する大学は、会長に届ける。

(会費)

第5条 会費は毎年度7月末日までに納入しなければならない。

- 2 会費は、会員大学1校につき年額3万円とする。
- 3 7月末日までに未納の場合は、総会の議決権を失う。
- 4 2年間会費を滞納した大学は、会員大学としての資格を失う。

(役員)

第6条 本協議会に、次の役員を置く。

- 一 会長 1名
- 二 副会長 2名
- 三 理事 7名
- 四 監事 2名

第7条 会長は、本協議会を代表し会務を処理する。

- 2 会長は、会議を招集しその議長となる。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会務を担当する。また、会長に事故のあるときはその職務を代行する。
- 4 理事は、本協議会の事業を分担し、円滑な運営を図る。
- 5 監事は、本協議会の会計を監査する。

(役員を選出)

第8条 役員は、評議員から選出し、定期総会において承認する。

- 2 役員任期は3年とし、再任を妨げない。
- 3 役員選出方法は別に定める。

(総会及び役員会)

- 第9条 総会は、毎年1回定期に開催する。
- 2 臨時総会は、会長が必要と認めたときに開催する。
 - 3 総会は、会員大学の過半数の出席および委任状により成立する。
 - 4 総会における議決権は、各会員大学1票とする。評議員の1名が議決権及び選挙権を有し、これらを行行使する。
 - 5 評議員の委嘱を受けた会員は、議決権を代行できる
 - 6 総会における議決は、出席した会員大学の過半数の同意による。
- 第10条 役員会は、会長が必要と認めたときに開催する。
- 2 役員会は、会長、副会長、理事、事務局で構成し、会長が必要と認めたときは監事が加わる。

(委員会)

- 第11条 目的を達成するために下記の委員会を置く。
- 一 教育課程(カリキュラム)検討委員会
 - 二 養成制度(法制度)検討委員会
 - 三 ファカルティ・ディベロップメント(FD)検討委員会
 - 四 広報・渉外委員会
 - 五 その他

(運営費)

- 第12条 本協議会の運営費には、会員大学の会費、その他の収入をもって充てる。
- 2 会計年度は、4月1日から翌年3月31日とする。

(事務局)

- 第13条 本協議会の事務局は、会長が定めるところに置く。
- 2 会務の処理にあたっては、会長が所属する大学または、理事の中から担当者を置くことができる。

(会則の改正)

- 第14条 この会則の改正は総会において、出席大学の3分の2以上の同意を必要とする。

- 附則 この会則は、2005年11月26日から施行する。
- 附則 2007年9月17日に一部改正した。2008年4月1日から施行する。
- 附則 2009年9月4日に一部改正した。第4条、第5条、第9条の一部改正については、2010年4月1日から施行する。第6条、第8条の一部改正については2012年4月1日から施行する。
- 附則 2013年9月6日に一部改正し、同日より施行する。
- 附則 2016年9月2日に一部改正し、2017年4月1日から施行する。
- 附則 2019年9月10日に一部改正し、同日より施行する。

V-2 日本養護教諭養成大学協議会役員会規程

(会の構成)

第1条 役員会は、評議員の中より選出された10名の理事により構成する。会長及び副会長は、理事の互選により決める。

2 監事は、会長が会員の中から2名を推薦し、総会の議を経て委嘱する。

(役割)

第2条 役員会は、本協議会の事業、研究・研修、会務の重要事項を審議し、総会に議事を提案する。また、総会の議決に従い、会務を執行する。

(会の招集)

第3条 役員会の招集は、会長が行なう。必要に応じてメール会議等に代えることができる。

(担当理事の責務)

第4条 理事は、本協議会の事業を推進し、役員会、総会に報告する。

2 各委員会には、担当理事を置く。

(役員解任及び補充)

第5条 役員が次の各号の一に該当するときは、役員会の承認により解任することができる。

一 会員資格を失ったとき

二 心身の故障または個人の事情等により職務の執行が困難と認められるとき

三 その他、役員たるにふさわしくない行為があると認められるとき

2 解任された理事の補充は補欠者名簿に基づいて行い、任期は前任者の残任期間とする。

3 解任された監事の補充は会長が会員の中から推薦し委嘱する。

(改正)

第6条 この規程の改正は、総会において、出席会員大学の3分の2以上の同意を必要とする。

附則 この規程は、2006年9月8日から施行する。

附則 この規程は、2009年9月4日に一部改正し、2012年4月1日から施行する。

附則 この規程は、2013年9月6日に一部改正し、同日より施行する。

V-3 日本養護教諭養成大学協議会理事選出に関する規程

(選挙管理委員会)

- 第1条 役員会は、会員の中から3名の選挙管理委員を委嘱する。
- 2 選挙管理委員は、選挙管理委員会（以下、「委員会」と称す。）を組織する。
 - 3 委員会に委員長を置く。委員長は選挙管理委員の互選によって定める。

(選挙権)

- 第2条 理事の選挙権は、選挙実施年度の前年度の会費を納入した会員大学に認める。

(選挙権及び被選挙権を有する評議員の届け出)

- 第3条 各会員大学は、毎年度5月末日までに、選挙権及び被選挙権を有する評議員1名を選出し、会長に届け出る。

(理事の選出)

- 第4条 委員長は、事務局に会員大学を代表する評議委員1名を明記した名簿を要請する。
- 2 委員会は、前項の名簿に基づき「被選挙者名簿」を作成し会員大学に配布する。
- 第5条 選挙期日は、役員会で決定し、会長が評議員に告示しなければならない。
- 第6条 選挙は無記名投票により行い、告示した日までの消印で委員会に到着したものについて、委員会が開票を行う。
- 第7条 投票は会員大学の選挙権をもつ評議員1名が、役員候補者10名を連記する。
- 第8条 次の投票は無効とする。
1. 正規の投票用紙及び封筒を用いないもの。
 2. 外封筒に記名のないもの。
 3. 被選挙者名簿に登録されていないものを記入したもの。
 4. その他、理事選出に関する規程に反するもの。
- 第9条 委員会は有効投票を多数得たものから10名を当選とする。
- 2 同数の有効投票を得たものについては、委員長が抽選により当選を決定する。
 - 3 委員会は役員解任があるときの補欠者名簿（得票順に若干名）を作成し、新役員会に申し送る。
- 第10条 当選が決定したときは、委員会は当選者に当選を通知し、その承諾を得る。
- 2 当選者が辞退したときは、次点のものから順に繰り上げて当選とし承諾を得る。
- 第11条 役員の名簿を委員会が作成し、総会の承認を得る。

附則 この規程は、2006年9月8日から施行する。

附則 この規程は、2008年9月5日に一部改正し、同日から施行する。

附則 この規程は、2009年9月4日に一部改正し、同日から施行する。

附則 この規程は、2010年9月3日に一部改正し、同日から施行する。

附則 この規程は、2013年9月6日に一部改正し、同日より施行する。

VI 2020年度 日本養護教諭養成大学協会 加盟大学・評議員名簿 2020年7月末日現在

加盟大学数137大学（大学130・短大7）

| 都道府県 | 大学番号 | 大学名 | 学部・学科・コース等 | 代表評議員名 | 評議員名 |
|------|------|--------------------|-----------------------|------------|------------|
| 北海道 | 1 | 北海道教育大学札幌校 | 教育学部 | 山崎 隆恵 | 山田 玲子 |
| | 2 | 北翔大学 | 教育文化学部・教育学科 | 今野 洋子 | 佐藤 朱美 |
| 青森県 | 3 | 弘前大学 | 教育学部教育保健講座 | 葛西 敦子 | 新谷 ますみ |
| | 4 | 八戸学院大学 | 健康医療学部人間健康学科 | 浜中 のり子 | |
| 秋田県 | 137 | 日本赤十字秋田看護大学 | 看護学部 | 小笹 典子 | 手塚 裕 |
| 岩手県 | 5 | 岩手県立大学 | 看護学部 | 大久保 牧子 | 橋本 真由美 |
| 山形県 | 6 | 山形大学 | 地域教育文化学部 養護教諭特別科 | 畔柳 まゆみ | 新井 猛浩 |
| | 7 | 公立大学法人 宮城大学 | 看護学群 | 相樂 直子 | 真覚 健・山岸 利次 |
| 宮城県 | 8 | 仙台大学 | 体育学部健康福祉学科 | 江口 千恵 | 高崎 義輝 |
| | 9 | 東北福祉大学 | 総合福祉学部 福祉心理学科 | 内藤 裕子 | 鎌田 克信 |
| | 10 | 宮城学院女子大学 | 教育学部教育学科 | 戸野塚 厚子 | 門間 典子 |
| 茨城県 | 11 | 茨城大学 | 教育学部 | 竹下 智美 | 廣原 紀恵 |
| | 13 | 茨城キリスト教大学 | 看護学部看護学科 | 松永 恵 | 松澤 明美 |
| | 134 | 常磐大学 | 看護学部看護学科 | 村井 江 | 猿田 和美 |
| | 136 | 筑波大学 | 医学群 看護学類 | 出口 奈緒子 | 水野 智美 |
| 群馬県 | 14 | 高崎健康福祉大学 | 保健医療学部 看護学科 | 青柳 千春 | 小原 成美 |
| | 15 | 東京福祉大学 大学院 | 教育学部・教育学科 | 面川 幸子 | 八重樫 節子 |
| | 16 | 群馬医療福祉大学 | 看護学部 | 丸井 淑美 | 山下 博子 |
| | 17 | 桐生大学 | 医療保健学部看護学科 | 間戸 美恵 | 大澤 靖彦 |
| 栃木県 | 124 | 足利大学 | 看護学部 | 豊島 幸子 | 森 慶輔 |
| 埼玉県 | 18 | 埼玉大学 | 教育学部学校保健学講座 | 関 由紀子 | 齋藤 千景 |
| | 19 | 埼玉県立大学 | 保健医療福祉学部 看護学科・健康開発学科 | 上原 美子 | 佐藤 玲子 |
| | 20 | 十文字学園女子大学 | 教育人文学部 心理学科 | 鈴木 雅子 | 布施 晴美 |
| | 21 | 女子栄養大学 | 栄養学部保健栄養学科 | 遠藤 伸子 | 大沼 久美子 |
| | 22 | 東洋大学 | ライフデザイン学部健康スポーツ学科 | 内山 有子 | |
| 千葉県 | 23 | 千葉大学 | 教育学部 学校教員養成課程 養護教諭コース | 三森 寧子 | 工藤 宣子 |
| | 24 | 聖徳大学 | 心理・福祉学部 社会福祉学科 | 小林 芳枝 | 湯原 裕子 |
| | 25 | 城西国際大学 | 看護学部看護学科 | 岩田 浩子 | 大田 幸雄 |
| | 26 | 千葉科学大学 | 看護学部看護学科 | 安藤 智子 | 大塚 朱美 |
| | 27 | 了徳寺大学 | 健康科学部看護学科 | 佐久間 浩美 | 池谷 壽夫 |
| | 132 | 順天堂大学 | スポーツ健康科学部 | 中西 唯公 | |
| 東京都 | 138 | 淑徳大学 | 総合福祉学部 | 鈴木 薫 | 齊藤 理砂子 |
| | 28 | 東京学芸大学 | 芸術・スポーツ科学系養護教育講座 | 竹鼻 ゆかり | 荒川 雅子 |
| | 29 | 杏林大学 | 保健学部・看護学科看護養護教育専攻 | 亀崎 路子 | 荻津 真理子 |
| | 30 | 国士舘大学 | 文学部教育学科・体育学部スポーツ医科学科 | 鈴木 裕子 | 内藤 祐子 |
| | 31 | 聖路加国際大学 | 看護学部 | 浦口 真奈美 | |
| | 32 | 上智大学 | 総合人間科学部看護学科 | 船木 由香 | 中嶋 佳奈子 |
| | 33 | 日本体育大学 | 体育学部健康学科 | 鹿野 晶子 | 野井 真吾 |
| | 34 | 東京医療保健大学 | 看護学部 | 入駒 一美 | 鈴木 みゆき |
| | 35 | 東京家政大学 | 人文学部心理カウンセリング学科 | 平川 俊功 | 中村 直美 |
| | 36 | 東京都立大学 | 健康福祉学部 | 斉藤 恵美子 | 島田 恵 |
| | 130 | 東京女子医科大学 | 看護学部 | 松永 幸子 | 藤原 瑞穂 |
| | 141 | 帝京大学 | 医療技術学部・スポーツ医療学科 | 内山 由美子 | |
| | 142 | 武蔵野大学 | 看護学部看護学科 | 橋本 結花 | 中板 育美 |
| | 神奈川県 | 37 | 神奈川県立保健福祉大学 | 保健福祉学部看護学科 | 高橋 佐和子 |
| 38 | | 鎌倉女子大学 | 家政学部家政保健学科 | 西牧 眞里 | 成川 美和 |
| 39 | | 北里大学 | 看護学部 | 市毛 正仁 | 落合 賀津子 |
| 40 | | 国際医療福祉大学 | 小田原保健医療学部 看護学科 | 宮崎 恵美 | 鶴田 利郎 |
| 41 | | 横浜創英大学 | 看護学部養護教諭課程 | 阿部 眞理子 | |
| 125 | | 東海大学 | 医学部看護学科 | 龍谷 恵 | 城生 弘美 |
| 新潟県 | 42 | 新潟医療福祉大学 | 看護学部看護学科 | 波多 幸江 | 坪川 麻樹子 |
| | 43 | 新潟青陵大学 | 看護学部看護学科 | 塚原 加寿子 | 中村 恵子 |
| 石川県 | 44 | 金沢大学 | 人間社会研究域学校教育系 | 森 慶恵 | |
| 福井県 | 45 | 福井県立大学 | 看護福祉学部看護学科 | 大川 洋子 | 岡田 恭子 |
| | 133 | 福井医療大学 | 保健医療学部看護学科 | 南 柱子 | 五十嵐 利恵 |
| 山梨県 | 46 | 松本大学 | 人間健康学部 スポーツ健康学科 | 中島 節子 | 山崎 保寿 |
| 静岡県 | 47 | 聖隷クリストファー大学 | 看護学部看護学科 | 津田 聡子 | 長峰 伸治 |
| | 126 | 静岡大学 | 教育学部学校教育教員養成課程養護教育専攻 | 鎌塚 優子 | 鈴江 毅 |
| 岐阜県 | 48 | 岐阜県立看護大学 | 看護学部看護学科 | 長瀬 仁美 | 松本 訓枝 |
| | 49 | 国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学 | 医学部看護学科 | 黒木 伸子 | 三好 美浩 |
| | 128 | 岐阜聖徳学園大学 | 看護学部看護学科 | 西田 倫子 | 高木 歩実 |
| 三重県 | 117 | 鈴鹿大学 | こども教育学部こども教育学科 | 小川 真由子 | 上田 ゆかり |
| 愛知県 | 50 | 愛知教育大学 | 教育学部養護教諭養成課程 | 岡本 陽 | 浅田 知恵 |
| | 51 | 愛知学院大学 | 心身科学部健康科学科 | 下村 淳子 | 城戸 裕子 |
| | 52 | 愛知みずほ大学 | 人間科学部 心身健康学科 | 田中 清子 | 後藤 多知子 |

| 都道府県 | 大学番号 | 大学名 | 学部・学科・コース等 | 代表評議員名 | 評議員名 |
|------|------|------------|----------------------------|--------|---------------|
| 愛知県 | 53 | 中部大学 | 生命健康科学部 | 小林 きよ子 | 横手 直美 |
| | 54 | 東海学園大学 | 教育学部・教育学科・養護教諭専攻 | 梶岡 多恵子 | 石田 妙美 |
| | 55 | 名古屋学芸大学 | コミュニケーション学部 子どもケア学科 | 近森 けいこ | 大原 榮子 |
| | 56 | 椋山女学園大学 | 看護学部看護学科 | 大見 サキエ | 川島 一晃 |
| | 57 | 人間環境大学 | 看護学部 看護学科 | 宮田 延実 | 松原 紀子 |
| 京都府 | 58 | 京都橋大学 | 看護学部看護学科 | 堀 妙子 | |
| | 59 | 京都女子大学 | 発達教育学部 教育学科 養護福祉教育学専攻 | 大川 尚子 | 中村 亜紀 |
| | 60 | 京都光華女子大学 | 健康科学部看護学科 | 荻津 智子 | 畠澤 ひろえ |
| | 61 | 同志社女子大学 | 看護学部 | 橋本 秀実 | 三橋 美和 |
| | 127 | 花園大学 | 社会福祉学部児童福祉学科 | 千田 眞喜子 | 笹谷 絵里 |
| 大阪府 | 62 | 大阪教育大学 | 教育学部養護教育部門 | 平田 久美子 | 出水 典子 |
| | 64 | 大阪府立大学 | 地域保健学域 看護学類 | 大野 志保 | |
| | 65 | 関西福祉科学大学 | 健康福祉学部健康科学科 | 斉藤 ふくみ | 山本 訓子 |
| | 66 | 藍野大学 | 医療保健学部 看護学科 | 吉田 順子 | 吉田 卓司 |
| | 67 | 四天王寺大学 | 教育学部 教育学科 | 楠本 久美子 | 岡本 啓子 |
| | 68 | 梅花女子大学 | 看護保健学部看護学科 | 菊池 美奈子 | |
| | 69 | 帝塚山学院大学 | 人間科学部 心理学科 | 齋藤 充子 | |
| | 70 | 大和大学 | 保健医療学部 看護学科 | 古角 好美 | |
| | 129 | 桃山学院教育大学 | 人間教育学部 人間教育学科 | 八木 利津子 | 永井 利三郎 |
| | 140 | 森ノ宮医療大学 | 保健医療学部 看護学科 | 老田 準司 | 阿部 秀高 |
| 兵庫県 | 71 | 関西福祉大学 | 教育学部保健教育学科・看護学部看護学科・看護学研究科 | 泊 祐子 | 池永 理恵子 |
| | 72 | 甲南女子大学 | 看護リハビリテーション学部看護学科 | 林 照子 | |
| | 73 | 園田学園女子大学 | 人間健康学部 総合健康学科 | 角田 智恵美 | 磯田 宏子 |
| | 74 | 姫路獨協大学 | 医療保健学部こども保健学科 | 森脇 裕美子 | 大塚 優子 |
| | 75 | 兵庫大学 | 健康科学部健康システム学科・看護学部看護学科 | 加藤 和代 | 細川 愛美 |
| | 76 | 神戸常盤大学 | 保健科学部看護学科 | 岩越 美恵 | 永島 聡 |
| | 77 | 姫路大学 | 教育学部こども未来学科 | 平松 恵子 | 柳園 順子 |
| | 78 | 神戸女子大学 | 看護学部 看護学科 | 丸山 有希 | |
| | 143 | 兵庫県立大学 | 看護学部・看護学科 | 古川 恵美 | 池田 雅則 |
| | 79 | 奈良教育大学 | 教育学部学校教育教員養成課程 | 笠次 良爾 | 高木 祐介 |
| 奈良県 | 80 | 畿央大学 | 教育学部現代教育学科・健康科学部看護医療学科 | 高田 恵美子 | 廣中 和枝 |
| | 82 | 滋賀県立大学 | 人間看護学部 | 古株 ひろみ | 糸島 陽子 |
| 滋賀県 | 83 | びわこ学院大学 | 教育福祉学部 子ども学科 | 内藤 紀代子 | |
| | 84 | 島根大学 | 医学部看護学科 | 土江 梨奈 | 原 祥子 |
| 岡山県 | 85 | 岡山大学 | 教育学部養護教諭養成課程 | 松枝 睦美 | 三村 由香里 |
| | 86 | 川崎医療福祉大学 | 医療技術学部 健康体育学科 | 難波 知子 | 米嶋 美智子 |
| | 87 | 吉備国際大学 | 保健医療福祉学部看護学科 | 増本 由紀子 | |
| | 88 | 山陽学園大学 | 看護学部看護学科 | 田村 裕子 | 福岡 悦子 |
| | 89 | 就実大学 | 教育学部教育心理学科 | 森 宏樹 | 森口 清美 |
| | 139 | 新見公立大学 | 健康科学部看護学科 | 郷木 義子 | 金山 |
| 広島県 | 90 | 広島大学 | 医学部保健学科・歯学部口腔健康科学科 | 川崎 裕美 | 野宗 万喜 |
| | 91 | 広島化学学園大学 | 看護学部看護学科 | 大野 泰子 | 岡本 陽子 |
| | 92 | 福山平成大学 | 福祉健康学部 健康スポーツ科学科 | 中村 雅子 | 岡 和子 |
| | 131 | 安田女子大学 | 心理学部現代心理学科・教育学部児童教育学科 | 新沼 正子 | 宮崎 久美子、宮本 香代子 |
| 山口県 | 93 | 山口県立大学 | 看護栄養学部・看護学科 | 丹 佳子 | |
| | 94 | 宇部フロンティア大学 | 人間健康学部 看護学科 | 新開 奏恵 | |
| 香川県 | 135 | 香川大学 | 医学部・看護学科 | 尾崎 典子 | 藤井 豊 |
| 徳島県 | 95 | 徳島大学 | 保健学科 看護学専攻 | 奥田 紀久子 | 田中 祐子 |
| | 96 | 四国大学 | 生活科学部 人間生活科学科 | 西岡 かおり | 小川 佳代 |
| | 97 | 徳島文理大学 | 人間生活学部 | 貴志 知恵子 | 竹内 理恵 |
| 愛媛県 | 98 | 愛媛大学 | 医学部看護学科 | 薬師神 裕子 | 乗松 貞子 |
| | 99 | 高知大学 | 医学部看護学科 | 齋藤 美和 | 笹岡 晴香 |
| 高知県 | 100 | 高知県立大学 | 看護学部 | 池添 志乃 | |
| | 101 | 福岡大学 | 医学部看護学科 | 小柳 康子 | |
| | 102 | 福岡県立大学 | 看護学部看護学科 | 松浦 賢長 | 梶原 由紀子 |
| 福岡県 | 103 | 西南学院大学 | 保健福祉学部 看護学科 | 一期崎 直美 | 西丸 月美 |
| | 104 | 長崎県立大学 | 看護栄養学部看護学科 | 中尾 八重子 | 大塚 一徳 |
| | 105 | 活水女子大学 | 健康生活学部子ども学科 | 江頭 ひとみ | 元村 智恵子 |
| 熊本県 | 106 | 熊本大学 | 教育学部・大学院教育学研究科 | 松田 芳子 | 後藤 知己 |
| | 107 | 九州看護福祉大学 | 看護福祉学部 | 古賀 由紀子 | 吉岡 久美 |
| 大分県 | 108 | 大分県立看護科学大学 | 看護学部 | 吉村 匠平 | 小野 治子 |
| 鹿児島県 | 109 | 鹿児島純心女子大学 | 看護栄養学部看護学科 | 小楠 範子 | |
| | 123 | 志学館大学 | 人間関係学部 心理臨床学科 | 満田 タツ江 | 胸元 孝夫 |
| 沖縄県 | 110 | 琉球大学 | 医学部保健学科 | 和氣 則江 | 高倉 実 |
| | 111 | 名桜大学 | 人間健康学部スポーツ健康学科 | 神田 奈津子 | 前川 美紀子 |
| 東京都 | 112 | 帝京短期大学 | 生活科学科生活科学専攻養護教諭コース | 中村 千景 | 穴戸 洲美 |
| 長野県 | 113 | 飯田女子短期大学 | 家政学科家政専攻 | 澤田 有香 | 安富 和子 |
| 愛知県 | 116 | 愛知みずほ短期大学 | 生活学科 | 渡辺 美恵 | 矢野 由紀子 |
| 大阪府 | 118 | 関西女子短期大学 | 養護保健学科 | 久保 加代子 | 毛利 春美 |
| 兵庫県 | 119 | 湊川短期大学 | 人間生活学科 | 北村 米子 | 山田 哲也 |
| 高知県 | 120 | 高知学園短期大学 | 看護学科 | 中野 靖子 | |
| 福岡県 | 121 | 九州女子短期大学 | 子ども健康学科/専攻科 | 橋口 文香 | 高木 富士男 |

Ⅶ 日本養護教諭養成大学協議会 役員一覧表 (2020年度)

| | | |
|-----|--------|--------------|
| 会 長 | 遠藤 伸子 | (女子栄養大学) |
| 副会長 | 池添 志乃 | (高知県立大学) |
| 副会長 | 竹鼻 ゆかり | (東京学芸大学) |
| 理 事 | 大川 尚子 | (京都女子大学) |
| 理 事 | 鎌塚 優子 | (静岡大学) |
| 理 事 | 亀崎 路子 | (杏林大学) |
| 理 事 | 下村 淳子 | (愛知学院大学) |
| 理 事 | 鈴木 裕子 | (国土館大学) |
| 理 事 | 松枝 睦美 | (岡山大学) |
| 理 事 | 三森 寧子 | (千葉大学) |
| 監 事 | 砂村 京子 | (東京医療保健大学) |
| 監 事 | 西牧 眞里 | (鎌倉女子大学) |

日本養護教諭養成大学協議会事業活動報告書（2020年度）

発行日 2021年9月10日
発行 日本養護教諭養成大学協議会（2021年度会長遠藤伸子）
事務局 〒350-0028 埼玉県坂戸市千代田 3-9-21
女子栄養大学 栄養学部 保健養護学研究室
TEL・FAX：049-282-3609
E-mail：yogojimu@j-yogo.jp
印刷所 株式会社リョーワ印刷
〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 3-55-8
TEL：03-3378-4180 FAX：03-3377-6081
